令和６年度

# 土浦市中学生交換交流事業(パロアルト市)実施報告書

主催：土浦市・土浦市国際交流協会

# ◇◆◇◆◇◆◇◆　目　次　◇◆◇◆◇◆◇◆


☆　姉妹都市パロアルト市ってどんなところ？　……　１

**派遣の部**

１　派遣生名簿　……　２

２　研修日程　……　３

３　現地研修日程　……　４

４　派遣生レポ―ト

・事前研修 ～ 帰国報告会　……　５～１３

・ホストファミリー・ホストデイレポート　……１４～２７

・パロアルト派遣を通して感じたこと　……２８～４１

５　引率者より　……４２～４５

**受入れの部**

１　参加者名簿　……４６～４７

２　受入れ日程　……４８

３　参加者レポート　……４９～６３

４　土浦市生徒の保護者より　……６４～６５

５　パロアルト市生徒・引率者より　……６６～７４

付　録

派遣・受入れ　活動紹介写真　……７５～８５

# 姉妹都市 パロアルト市ってどんなところ？

↑パロアルト市庁舎前にある
姉妹都市を示す看板

## ◆位　置

パロアルト市は、アメリカ合衆国カリフォルニア州北部サンフランシスコ湾岸地域のサンタクララ郡にある都市です。
（サンフランシスコの南約５６ｋｍ、車で約５０分の距離にあります。）

## ◆面　積

約７０km²（土浦市のおよそ２分の１）

## ◆人　口

約６万７千人

## ◆概　要

パロアルト市はシリコンバレー北端部にあり、スタンフォード大学の町と言われております。全米屈指の大学のお膝元であり教育水準のもっとも高い都市と評され、その住みやすさも相まって多くの人々を惹きつけております。大学は数多くの起業家、エンジニアを輩出し、ゆえにパロアルトは多数のハイテク企業が生まれ育っていく地となりました。Apple、Google、Facebook など、世界に名だたる企業 がパロアルト市から世界に羽ばたいています。

「パロアルト」とは、スペイン語で"El Palo Alto(背の高い木)"を意味する言葉です。サンフランシスキート川沿いのアメリカ杉にちなんで名付けられました。

## ◆交流の経緯

平成５（１９９３）年に旧新治村に進出したパロアルト市に本社のある企業の協力により、同市在住社員の家庭にホームステイする派遣事業を開始しました。ネイバーズアブロード（パロアルト市の国際交流団体）を中心とする多くのボランティアの協力により交換交流を継続しております。

平成２１（２００９）年４月、両市は姉妹都市の締結をし、土浦市にとって初めての姉妹都市が誕生しました。そして今年、姉妹都市締結１５周年を迎えました。

# 派遣の部

## 1　派遣生名簿

| No. | 土 浦 市 | | | パ ロ ア ル ト 市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 氏 名 | 学校名(学年) | 性別 | 氏 名 | 学校名(学年) | 性別 |
| 1 | 大屋 諒 | 土浦第一中学校 8年 | 男 | Nathan Wong | JLS 中学校 8年 | 男 |
| 2 | 藤原 万緒 | 土浦第一中学校 8年 | 女 | Nika Ploesser | Greene 中学校 7年 | 女 |
| 3 | 鈴木 葉結 | 土浦第一中学校 8年 | 女 | Julia Ni | Greene 中学校 7年 | 女 |
| 4 | 松本 朋 | 土浦第二中学校 8年 | 女 | Siyuan Claire Huang | JLS 中学校 8年 | 女 |
| 5 | 福田 優那 | 土浦第二中学校 8年 | 女 | Emi Golbus | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 6 | 中谷 優菜 | 土浦第三中学校 8年 | 女 | Isabella Liang Paglia | Greene 中学校 7年 | 女 |
| 7 | 秋葉 紀乃 | 新治学園義務教育学校 8年 | 女 | Aria Agarwal | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 8 | 川村 怜愛 | ~~土浦第一高等学校~~ 附属中学校 2年 | 女 | Fiona Buchholz | Greene 中学校 7年 | 女 |
| 9 | 草間 千晴 | ~~土浦第一高等学校~~ 附属中学校 2年 | 女 | Jane Han | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 10 | 田谷 凛花 | ~~土浦第一高等学校~~ 附属中学校 2年 | 女 | Isabella Wang | JLS 中学校 7 年 | 女 |
| 11 | 河内 柚衣 | 常総学院中学校 2年 | 女 | Diya Contractor | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 12 | 川田 明日香 | 日大中等教育学校 2年 | 女 | Soane Pauliac-Vaujoir | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 13 | 澤村 明歩 | 日大中等教育学校 2年 | 女 | Juliette Mermod | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 14 | 渡邉 芽依 | 日大中等教育学校 2年 | 女 | Luna Han | JLS 中学校 7年 | 女 |

**＜引率者＞**

| No. | 氏 名 | 所 属 |
|---|---|---|
| 1 | 磯西 治子 | 土浦第一中学校教諭 |
| 2 | 唐田 壮 | 土浦市市民活動課 |

## 2　研修日程

| | 日　時 | 内 容 | 会　場 |
|---|---|---|---|
| 1 | 令和5年<br>12月26日(火)<br><br>13:30～15:30 | 説明会<br>・今後の日程の確認<br>・派遣研修の目標設定<br>（何を学びたいのか、参加する目的） | 土浦市<br>男女共同参画<br>センター<br>研修室1・2 |
| 2 | 令和6年<br>2月1日(木)<br><br>13:30～16:30 | 第1回　事前研修会<br>・ALTによる英会話研修<br>・派遣生の役割分担<br>・現地での交流内容について | |
| 3 | 2月15日(木)<br><br>13:30～16:30 | 第2回　事前研修会<br>・ALTによる英会話研修<br>・現地での発表資料作成<br>・交流内容の話し合い | |
| 4 | 3月1日(金)<br><br>13:30～16:30 | 第3回　事前研修会<br>・交流内容の話し合い<br>・発表資料のプレゼン<br>・旅行業者からの渡航に関する説明等 | |
| 5 | 3月16日(土)<br><br>11:00～11:30 | 結団式・出発<br>・派遣生代表あいさつ<br>・引率代表あいさつ | 新治地区<br>公民館 |
| 6 | 3月16日(土)<br>～25日(月) | 現地派遣研修 | アメリカ・<br>パロアルト市 |
| 7 | 3月 27 日(水)<br>16:00～17:00 | 帰国報告会 | 土浦市<br>男女共同参画<br>センター<br>研修室1・2 |
| 8 | 5月 10 日(金)<br><br>18:00～19:30 | 第1回　受入事前研修会<br>・受入期間の予定、役割分担<br>・受入れ経験家族による体験談 | |
| 9 | 5月 31 日(金)<br><br>18:00～19:30 | 第2回　受入事前研修会<br>・交流行事の企画・役割分担<br>・交流内容についての話し合い | |
| 10 | 6 月 7 日(金)～<br>15 日(土) | パロアルト市中学生受入 | 研修生宅 |

## 3　現地（パロアルト市）研修日程

| No. | 月日 | 発着地／滞在地名 | 時　間 | スケジュール |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 3月<br>16日<br>（土） | 土浦市<br>成田空港着<br>成田空港発 | 11:30<br>13:30<br>18:05 | バスにて成田空港へ<br>成田空港到着<br>出国手続後、空路サンフランシスコ国際空港へ<br>（日本航空 JL58 便） |
| | | サンフランシスコ着<br>パロアルト市 | 11:15<br><br>午後 | サンフランシスコ国際空港到着<br>入国手続き後、パロアルト市へ<br>パロアルト市にてホストファミリーと対面<br>歓迎パーティー　（ホームステイ） |
| 2 | 17日<br>（日） | パロアルト市 | 終日 | ホストデイ（家族とともに）<br>（ホームステイ） |
| 3 | 18日<br>（月） | パロアルト市 | 終日 | 生徒はバディ（ホストファミリー生徒）と学校へ<br>夜パロアルト市議会訪問<br>（ホームステイ） |
| 4 | 19日<br>（火） | パロアルト市 | 終日 | 生徒はバディと学校へ<br>（ホームステイ） |
| 5 | 20日<br>（水） | パロアルト市 | 終日 | 学校及びパロアルト市内・近郊見学<br>（ホームステイ） |
| 6 | 21日<br>（木） | パロアルト市発<br><br>ヨセミテ着 | 朝<br><br>昼 | 各中学校（JLS中・Greene 中）集合後、ヨセミテへ<br>ヨセミテ国立公園見学　（ヨセミテ泊） |
| 7 | 22日<br>（金） | ヨセミテ<br>ヨセミテ発<br>パロアルト市着 | <br>昼<br>夕方 | ヨセミテ国立公園見学<br><br>（ホームステイ） |
| 8 | 23日<br>（土） | パロアルト市 | 朝～昼<br>夕方 | サンフランシスコ見学<br>市内施設にて答礼パーティー　**（ホームステイ）** |
| 9 | 24日<br>（日） | サンフランシスコ<br>サンフランシスコ発 | 朝<br>13:10 | 朝食後、サンフランシスコ国際空港へ<br>出国手続き後、空路成田へ<br>（日本航空 JL57 便）　（機内泊） |
| 10 | 25日<br>（月） | 成田空港着<br>成田空港発<br>クラフトシビックホール土浦着 | 16:20<br>17:20<br>18:30 | 成田空港到着<br>入国手続き後、バスにて土浦市へ<br>クラフトシビックホール土浦到着後、解散 |

# ４　派遣生レポート

## 事前研修･結団式

○事前研修

第一回　２月１日(木)

４つのグループに分かれて、各学校の ALT の先生との英会話研修。滞在中の日程やイベントの役割分担などを確認。また、現地の学校で行う日本についてのプレゼンテーションの各個人のテーマ設定。

第二回　２月１５日(木)

第一回と同様に、グループごとの英会話研修。現地での実践的な英語の使い方を練習。他にもプレゼンテーション発表の練習や、答礼パーティーの内容について決定。

第三回　３月１日(金)

JTB の添乗員さんを交えて、渡航に関しての注意や詳細の確認。答礼パーティーのリハーサルなど。

○結団式　３月１６日(土)

・主催者・来賓挨拶
・派遣生・引率者代表挨拶
・パロアルト市への土産品紹介

市長を始め様々な方にお言葉を頂き、成田国際空港に向けてついに出発！

（担当：田谷　凜花）

## 歓迎パーティー

約９時間の長いフライトを終えて、ついにホストファミリーと歓迎パーティーで無事会うことができました。ホストファミリーたちはネームボードなどで私たちの到着をとても喜んでくれました。私たちもホストファミリーと会えてとてもうれしく、これからのホームステイがいっそう楽しみになりました。

すごく楽しみにしていたホームステイでやっとホストファミリーに会えたのでどれから話したらいいのかわからないぐらい、話したいことが山ほどあったけど、まだアメリカに着いたばかりでわからないことが多く、緊張していて私は英語でうまく話すことができませんでした。それに現地の人たちは、思っていたよりも発音がきれいで聞き取るのも難しいくらいでした。日本にいた時は意外と話せるだろうなと思っていたけれど、実際に話してみると全然言葉が出てこなくて、単語をならべるだけで精一杯でした。ホストファミリーは日本語が全く話せないと聞いていたので少し不安でした。でも準備してくれたごはんやお菓子などを食べて自己紹介をしたり、共通の好きなものを見つけたりしてだんだんと距離を縮めることができました。

家に帰ると、バディの家も歓迎の装飾がたくさんしてあって嬉しかったです。

（担当：渡邉　芽依）

## JLS Middle School～日本の学校との違い～

・グループ型での授業
　→　先生からの質問に、自分の持ってる意見をみんなで活発に言い合っていた。

・黒板ではなくスクリーンを使っての授業
　→　ワークシートでの記述でノートを使っていなかった。

・ランチタイムは各自で
　→　学校のランチを食べる人、お弁当、買ってきたもの、様々なものを食べていた。また、食べる場所やメンバーも様々で外で食べたり、仲の良い人達で食べたりしていた。

（担当：松本　朋）

# Greene 中学校

Greene 中学校では、日本とアメリカの学校の違いをたくさん発見できました。中国出身、アフリカ出身、そして母国語をスペイン語とする生徒など色々な人が集まっていて、「人種のサラダボウル」と言われるアメリカを実感できます。そして、制服はなく髪型のしばりもなく、日本の学校と比べるととても自由に感じました。

授業の形式は、３０分授業が７コマの日、８０分授業が４コマの日があるスケジュールで、３０分授業のときには、授業間の教室移動が忙しく、慣れていないと大変でしたが、体育や美術などのいろいろな教科の授業を体験することができ、移動の忙しさが新鮮で面白かったです。

各教室に設置してあるパソコンを主として利用し、タスク中は、音楽を聴いたり、おかしを食べたり、友達と行ってもよいというルールになっていて、アメリカの自由な雰囲気が反映されていると思いました。

国語の授業では、物語を読んで思ったことを文で表し、理科では、生物の体の特徴を学んだ上で自然界での生き残り方を自分なりに考えてまとめたりするなどの活動が多く、自分の感情や考えることを大切にしている授業だと感じました。また、スペイン語の授業では、歌を歌いながらダンスを踊って文法を覚えたり、発表をみんなの前で一人一人したり楽しみながら学ぶという授業になっていました。

開放感とグローバルな空間で授業中は積極的に発言し、真剣に取り組む姿が印象的でした。

校舎は一階建てでとても広く日本の学校より大きかったです。廊下に鍵付きのロッカーがあり、そこに荷物を入れます。その為、廊下はとても広いです。ランチタイムは給食はなく、お弁当を持ってきたり、購買で買ったりします。好きな場所で友達とおしゃべりをしながら楽しい時間を過ごし、自由な雰囲気を感じました。Greene 中学校で体験した事は、日本とアメリカのよさを知る良い機会になりました。

（担当：中谷　優菜、川村　怜愛）

## パロアルト市近郊見学

私達は、スタンフォード大学とGoogle本社を訪れました。スタンフォード大学は非常に大きくて、街みたいでした！大学では教会を見学し、ステンドガラスの美しさや、パイプオルガンの音色を聞くことができました。

Googleは、バディのマザーが務めている会社です。グーグルは会社とは思えないほどオシャレな建物で、訪問することが出来て貴重な経験が出来ました。本社の周りにはキラキラ光る虹色の建物や丸いオブジェなど、個性的な建築物が沢山ありました。日本と比べて植物・緑が多い街づくりだと思いました。また、オシャレな建物が多く、魅力的な街で、また訪れたいと思いました！

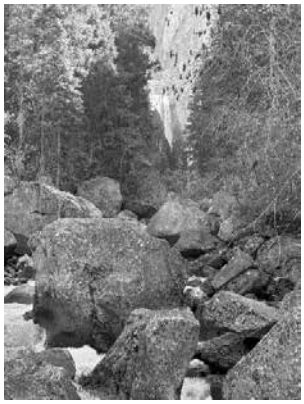
（担当：福田　優那）

## ヨセミテ国立公園

➢ １日目

片道４時間をかけて行ったヨセミテ国立公園では、素晴らしい景色を見ることが出来ました。１日目にはたくさんの種類の、綺麗な滝を見ました。山々が連なっている様はとても神々しく、感じるものがありました。一緒に行った友達と写真の撮り合いっこをしたのも、いい思い出となっています。

➢ ２日目



２日目にはヨセミテ国立公園の中の山を登り、バーナル滝を見ました。

山はとても険しく、疲れましたが、それ以上に、絶景や綺麗な自然を見ることができて、とても良い経験となりました。また、滝を見終えて山を下っているときにリスがいて、みんなで写真を撮りました。

（担当：藤原　万緒、川田　明日香）

## 世界一美しい街サンフランシスコ

～ピア３９～
　ファッションのお店や、野球グッズのお店があり、みんなそれぞれで買い物を楽しみました。
　特に印象に残ったのは、野生のアザラシがたくさんいたことです。日本では、あまりアザラシを見かけないのですごく新鮮でした
　また、中にあるお店のクラムチャウダーがすごく美味しかったので二杯食べてしまいました。

～IN N OUT～
　西海岸のハンバーガーチェーン店です。頼んだものは、ダブルチーズバーガーとアニマルフライです。
　意外にもサイズは日本と同じぐらいでしたが、酸味の効いたソースで味付けされていて初めて食べた味でした。

～路面電車～
　急勾配なサンフランシスコの路面電車から見た光景が、見たこともない絶景でした！電車から降りた瞬間、とても賑わった声が聞こえて、街を見渡すと大きな建物が広がっていました。
　運転士に「Are you Korean？」と聞かれたのを今でも覚えてます。

（担当：大屋　諒、鈴木　葉結）

## 答礼パーティー

ホストファミリーとももうお別れ。
感謝の気持ちをこのパーティーで伝えました。

ミニゲームでは、「日米伝言ゲーム」を行い、英語での説明では難しい場面もありましたが、サポートしあいながらゲームをすることができました。

パロアルトの生徒からのプレゼントがあり、そこで感謝の気持ちを言葉で伝えることができました。

最後の最後まで笑顔で楽しく話していました。また、最後のお別れではバスを追いかけて走り、手を大きく振ってくれました。

（担当：秋葉　紀乃）

# 帰国報告会

## 市長あいさつ

安藤市長を始め、来賓の方々から
ご挨拶をいただきました。

## 派遣生代表あいさつ

派遣生代表の大屋諒さんから挨拶がありました。

パロアルト派遣を主催してくださった来賓の方々に派遣に参加できた感謝の気持ちを伝えていました。

## 引率者代表あいさつ

引率者代表の磯西治子先生（土浦一中）から、今回の派遣の報告や派遣生たちの体験を来賓の方々にお話ししてくださいました。

先生の体験を通して感じたことや感想を通して思いが伝わってきました。

## 土産品贈呈

派遣生三名からパロアルトの土産品を
来賓の方々に贈呈しました。

## 派遣生の帰国報告

派遣生ひとりひとりが派遣を通して感じたことや思ったことを来賓の方々や保護者にお伝えしました。

派遣生全員が違った体験をしていましたが、全員が行ってよかったと思えるような派遣だったと話していました。

このような機会があり、本当によかったと思いました。

（担当：澤村　明歩）

# MY Host Family

土浦第一中学校　大屋　諒

**Felix　日本語がとても上手な優しいパパ、これまでのキャリアがものすごい**
**Nathan　僕のバディ、ゲームがとても上手で将来の夢はゲームクリエイター**
**Ella　バディの妹、元 google の社長のご子息も通う学校に通っているチェロが上手**
**Eva　みんなの優しいママ　スタンフォードのシステムを作っている優秀なエンジニア**
**Matthew　ガンダムが好きなお兄ちゃん　この夏日本の語学学校に来る予定**

My host family

土浦第一中学校　藤原　万緒

ホストファザー：ドイツ出身、辛い物が好き、やさしい、面白い
ホストマザー　：ロシア出身、やさしい、口癖は perfect
ニカ（バディ）：絵を描くことが好き、バレーボールをしている
それぞれの母国語を話すことができて、家ではドイツ語、ロシア語、英語が飛び交っていました。

About host day

ピッケルボールのイベントに行きました。ピッケルボールとは、テニスに似ている球技です。やってみるととても楽しく、打った時の「ポーン　ポーン」という音がとても気持ちよく、ゲームも楽しかったです。

その後は、GOTT'S でベーコンチーズバーガーを食べました。アメリカのハンバーガーは、バンズがふっくらしていてパティは肉の感じが強くて日本のものよりもとてもおいしかったです。よく、ハンバーガーはアメリカの方が大きいと聞いていたのは本当で、ハンバーガーだけでおなかが満たされました。また、飲み物がとても大きかったです。

スタンフォード大学に、スタンフォード大学 VS サンフランシスコジャイアンツの野球の試合を見に行きました。途中で帰ることになったけれど、アメリカの野球の雰囲気を感じられてとても楽しかったです。

最後にショッピングモールに行きました。とても広くて、たくさんのお店があって楽しかったです。

# MY host family

土浦第一中学校　鈴木　葉結

Father…建築の仕事をしている優しいお父さん。家族思いで料理が上手！
Mother…元気で明るいお母さん。 家族のムードメーカー的な存在で、いつも私を気遣ってくれました。
Buddy（Julia）…笑顔が素敵な友達思いのバディー。沢山話しかけてくれてパロアルトについてたくさん教えてくれました！
Brother（Mike）…しっかりしたお姉さん思いの弟。少しシャイで恥ずかしがり屋！

## Host day

〇ピックルボールにチャレンジしました。アメリカ発祥のテニスと卓球を合わせたようなスポーツで、60 年の歴史があるそうです。始めは力加減が難しかったけどすごく楽しかったです！

〇アクアリウムに行きました。まさかの虫がむき出しで触れちゃうのには驚きました。知らない生き物に出会えて凄く素敵な場所でした。

〇ゴールデンブリッジを見に行きました。想像していたよりも大きくて迫力がありました。

〇クッキングナイトでは親子丼を作りました。みんなおかわりしてくれてうれしかったです。

# ☆ host family☆

土浦第二中学校　松本　朋

・Claire（buddy)優しくて思いやりがある
・Christopher（brother）物静かで優しい
・Alan（brother）元気で好奇心旺盛
・Fangfang（mother）気さくに話しかけてくれる
・Heng（father）明るく話しかけてくれる

# ☆Host day☆

・「EcoCenter」に行って鳥や航空機を見た
・スーパーマーケットでお買い物をした
・バディの子と弟と一緒にマカロンを作った
・「IN-N-OUT」でハンバーガーを食べた
・家族みんなでカードゲームをやった

# My host family

土浦第二中学校　福田　優那

Buddy Emi

日本語が上手でギターも上手♡

Brother Tobby

ゲームが上手で私と同い年！

Mother　職場のGoogleを

案内してくれました！

Father　ギターと料理が上手！

Pet　Moka　可愛くてデカい犬🐶

# Host day

ホストデイでは、「サンタクルーズ・ビーチ・ボードウォーク」という遊園地に連れていってもらいました。日本にはない様な乗り物が沢山あり、ワクワクしました！！ぐるぐる回るアトラクションだったので人生で初めて気持ち悪くなりました。ですが、絶叫系アトラクションにエミと沢山乗れてとても楽しかったです！！

# My Host Family

土浦第三中学校　中谷　優菜

Buddy
　サンリオが好きで優しいバディ

Mother
　猫が好きで明るいお母さん

## Hostday

ピックルボールという競技にチャレンジしました。意外と難しかったけど、楽しかったです。そのあとはハイキングに行きました。たくさんの木に自然を感じ、とても癒されました。アジアンスーパーで、クッキングナイトの材料を買ったり、中華とハンバーガーを食べに連れて行ってくれました。ハンバーガーはとてもボリュームがあり、今まで食べたハンバーガーで 1 番美味しかったです。家族のお土産を一緒に選んでくれたり、楽しい時間を過ごせました。

クッキングナイトでは、肉じゃがを作り、喜んでもらいました。
ホストファミリーと過ごした時間はとても楽しく、あっという間でした。
この思い出は一生忘れません。本当に感謝しています。

# My Host Family

新治学園義務教育学校　秋葉　紀乃

**Buddy：Aria**

明るく元気でフレンドリーな Buddy

**Father**

優しく見守ってくれるお父さん

**Mother**

笑顔で優しく寄り添ってくれた
お母さん

**Pet**：人懐っこくかわいい犬

# Host Day

★Pickleball アメリカで有名なスポーツを一緒にやりました。そこにいた人たちはみんな明るくて元気で楽しかったです。

★Shopping おすすめされたものをいくつか買いました。また、ハンバーガーを食べ、その大きさにはびっくり！想像以上の大きさ。

★Home 家ではテイラースウィフトの曲を聴きながら、私が知らないキャミオというトランプゲームをやりました。面白かったです。

他にもたくさんの貴重な体験をさせてくれたホストファミリー、
毎日が最高でした。Thank you!!

土浦第一高等学校附属中学校　川村　怜愛

【My host family】

| | |
|---|---|
| Buddy | Fiona |
| Sister | Felicia |
| Father | Stephan |
| Mother | Florentina |
| Dog | Beanie |

ドイツの家庭ということもあり、ソーセージやコールスローなどのドイツ料理をたくさん紹介してくれて、食べさせてくれました。また、学校やヨセミテ、サンフランシスコ観光に行く時や、帰りの空港でのランチ用に、外出のときには必ずクリームチーズのサンドイッチときゅうりを持たせてくれました。とても美味しかったし、それがとっても嬉しかったです。お話が大好きでみんな仲が良く、温かい家庭に家族の一員として迎えてもらえて、とても幸せな１０日間になりました。

【Host day】 ホストデイには、ダウンタウンとサンタクルーズ遊園地に行きました。ホストの家から、ダウンタウンまでは自転車で１５分くらいで、サイクリングをしながら、スティーブ・ジョブスの家や市役所、パロアルト警察署などを観光しながら行きました。市役所ではパロアルト市と土浦市の姉妹都市を象徴する看板を見ることができました。パロアルト市との繋がりが目に見えて分かって、フィオナと一緒に嬉しくて飛び跳ねました！ダウンタウンでは、フィオナおすすめのアイスクリーム屋さんやコスメショップ、ラグショップに行きました。

どのお店もアメリカ独特の商品や種類があって、たくさんの違いを感じました。特に、アメリカのアイスクリームは一番小さなサイズでも拳１個分くらいのサイズであることに驚きました。私の注文したラベンダー味とチョコチップ味のアイスはとても美味しかったのですが、食べきるのが本当に大変でした。サンタクルーズ遊園地には、ビーチの砂浜があり、フィオナとステファン、ビーニーと走ったり、色々なアトラクションに乗ったりしました。絶叫系のアトラクションが好きな私とフィオナは、全てのジェットコースターに乗りました。特に、木でできたアップダウンが激しいジェットコースターが一番楽しかったです。フィオナと悲鳴を上げながら楽しむことができて、とても良い思い出になりました。

土浦第一高等学校附属中学校　草間　千晴

# MY HOST FAMILY

## Mom

たくさん話しかけてくれて
心強いお母さん

## Buddy(Jane)

たくさんの友達がいて面白い
最高なバディ

## Old brother&sister

すごく優しくて頭の良い
お兄さん、お姉さん

## HOST DAY

- モントレーベイ水族館
  海沿いにあり、絶景が見られました。

- ギラデリチョコのアイスショップ
  バディのおすすめチョコアイスが美味し
  すぎました。もう一度食べたいです。

- シーフードレストラン
  念願のクラムチャウダーを食べることができ、
  量の多さとパンの酸っぱさには驚かされました。
  日本にはないチップの文化も学べました。

他にもいくつかお土産屋さんを回りました。初めてレジを使うときは少し緊張しました。夜はバディのロボット教室のパーティーに連れて行ってもらい、新しい友達ができました。ホストファミリーのおかげでとても充実した一日になりました。

# ホストファミリー・ホストデイについて

土浦第一高等学校附属中学校 田谷　凛花

## ○ホストファミリーについて

Bella:バディ。ちょっとシャイな女の子。

Songli:とても優しいお父さん。

Xuecong：元気で優しいお母さん。

## ○ホストデイについて

まず、事前に行ってみたいと伝えていたサンフランシスコのミッション地区に連れて行ってもらいました。高速道路で一時間弱ほどで着き、街中を散策しながらお父さんが色々とサンフランシスコの街について解説してくださいました。建物の壁に描かれた大きなストリートアートで写真を撮ったり、有名なお土産屋さんに連れて行ってもらったり、Bella とアイスクリームを食べたりしました。お昼にはメキシコ料理の店へ行き、タコスの大きさやチップスの量に驚きました。

その後はゴールデンゲートパークの博物館に行って熱帯雨林の体験をしてみたり、公園内でサイクリングをしました。ホストファミリーは私がやりたいと言った事を全部やらせてくれて、とても楽しい一日になりました。

常総学院中学校　河内　柚衣

## MY HOST FAMILY

Diya (buddy)　いつも明るく、周りを笑顔にしてくれる。
Brother　ゲームが大好き。
　鬼滅の刃が好き。
Father　日本についてたくさん質問してくれた。
Mother　とても美味しい料理を作ってくれた。

## HOST DAY

《１日目》
家の周りを歩きながら紹介してくれました。公園へ行って、近くにあるタピオカ屋で買ったタピオカを飲みました。そこでは、トッピングのサービスがあり驚きました。なぜなら、私の知っている日本のタピオカ屋にはそのようなサービスがないからです。家に帰った後、みんなでテレビゲームと絵しりとりをしました。初日でしたが、仲良くなれました。夕飯では、初めてインド料理を食べました。豆の煮込み料理が特に美味しかったです。

《２日目》
FoothillsPark でハイキングやカヌーを体験しました。ハイキングでは結構歩いたため疲れましたが、終わった後に見る景色はとてもきれいでした。カヌーでは、四人で漕げるカヌーに乗りました。他のカヌー利用者とすれ違った際、挨拶をしてくれて嬉しかったです。日本でカヌーをした際、そのような経験をしたことがなかったので驚きました。カヌー後に行ったアイス屋でもトッピングのサービスがありました。Diya おすすめのグミをのせて食べてみると、思ったより食感が楽しく美味しかったです。また、アイスのミディアムサイズが手のひら二つ分くらいあり、とても驚きました。

この二日間では、たくさんの場所で素晴らしい経験ができました。
また、Diya の友達家族にも歓迎され、とても嬉しかったです。

# MY HOST FAMILY

土浦日本大学中等教育学校　川田　明日香

・ホストファザー（父）：Sebastien

・ホストマザー　（母）：Emmanuelle

・ホストシスター（姉）：Lou

・バディ（本人）　　：Soane

・ホストブラザー（弟）：Joshua

・ホストシスター（妹）：Lenny

私のホストファミリーは６人の大家族のおうちでした。私は、英語が得意ではありませんが、家族みんなで私をサポートしてくれたため、１週間、とても楽しい時間を過ごすことができました。弟たちは、お気に入りのゲームに誘ってくれたり、私の英語の発音を直したりしてくれました。心優しい家族が私のことを迎えてくれました。みんな大好きです！

# HOST DAY

一緒に行ったほかの派遣生とそのホストファミリーの人たちと、サンタクルーズに遊びに行きました。遊園地では激しいジェットコースターに乗り、きれいな海辺でみんなと仲良くはしゃいで遊びました。最後にレストランで美味しいご飯を食べて、本当に幸せな１日でした。とてもいい思い出です。

土浦日本大学中等教育学校　澤村　明歩

# ❤HOST FAMILY ❤

Buddy(Juliette)：ドラゴンと絵をかくのが好きな女の子
Sister：元気で日本が大好きなJuliette のお姉ちゃん
Mom：笑顔で話しかけてくれたお母さん
Dad：面白くて優しいお父さん

# ❤HOST DAY ❤

サンタクルーズという遊園地に行きました。
行くまでに時間がかかったけれど日本語を教えたり
フランス語を教えもらったりしてとても楽しかったです。
ジェットコースターに乗ったり海にいって泳いだり砂浜で遊んだりしました。
ホストデイを通してバディやホストファミリーと仲良くなれてうれしかったです。

ホストファミリーがいたことでより一層楽しむことができました。
本当にお世話になりました。ありがとうございました！

# 自慢のホストファミリー

土浦日本大学中等教育学校　渡邉　芽依

ホストファミリー

◦Luna（バディ）：ゲームが好き
　　友達がたくさんいる

◦ホストファザー：優しい、運転が上手

◦ホストマザー：面白くてノリがいい

◦Luna の妹：小学生でルービックキューブが得意

◦Luna のおばあちゃん：ごはんがおいしい

ホストデイは、ホストファザーが運転をしてくれて、サンフランシスコに連れて行ってくれました。そこでは Luna が好きなバレエを一緒に見ました。たくさんの人が見に来ていたし、建物もとても高級感がある場所でした。なので、少し緊張しながらバレエがスタートしました。バレエを見るのは初めてだったのでとても面白かったです。楽器の演奏がとてもきれいでバレエも演出がすごくクオリティーが高くて感動しました。バレエを見た後はサンフランシスコの街並みを見ながらゴールデンゲートブリッジに行きました。丘になっているから坂がとても多いとホストマザーが教えてくれました。でも坂が多いと車で通るのも大変だからあまり好きではないと話していました。ゴールデンゲートブリッジはアメリカで有名な場所なので行けてとても嬉しかったです。今までは写真などでしか見たことがなかったので、実際に見てみて、思っていたよりも大きくて迫力があることに驚きました。橋を渡ることはできなかったので次行く機会があったら橋を渡ってみたいです。

## パロアルト派遣を通して感じたこと

Thank you, Palo Alto host family

土浦第一中学校　大屋　諒

この度、パロアルトでの10日間のホームステイを経験し、想像を超えた刺激と学びを得ることができました。このような貴重な機会を与えてくださった両国関係者そしてホストファミリーの皆様に、心より感謝申し上げます。

まず、JLS中学校を訪れた際に二つの衝撃を受けました。

一つ目は、朝の校内放送です。なんと、生徒会の生徒がその日の学校のニュースを収録して放送していました。僕も交換留学プログラムの生徒の一人としてインタビューを受けてきました。これは日本の学校では考えられないことでした。

二つ目は授業です。特に印象に残ったのが英語と公民の授業でした。英語の授業では、先生が七つのテーマの題名を映し出し、それを基に前書きを書くという、創造性を養う課題が出されました。これは日本の国語の授業とは全く異なり、新鮮な驚きと共に自分の発想力や表現力を試される刺激的な経験となりました。

公民の授業では、生徒がグループごとにレポートを作成していました。その内容は、実在する政治家のいい点と悪い点をまとめたもので、非常に興味深く、日本の社会の授業とは一線を画す、より実践的な政治教育であると感じました。

今回のパロアルトでの経験を通して日本とは異なる教育システムや文化に触れ多くのことを学ぶことができました。特に生徒主体のアクティブな学習スタイルや、社会問題に対する深い関心を持つ生徒たちの姿に感銘を受けました。

I would like to make the most of this experience and continue to act with no talk, all action. Thank you.

# アメリカの良さと日本の良さ

土浦第一中学校　藤原　万緒

私は、アメリカに行って、アメリカの良さにも気づきましたが、逆に日本の良さにも気づくことができました。

まず、アメリカの良さとして、すべての規模が大きいことが挙げられます。ホストデイで連れて行ってもらったショッピングモールはとても広く、一周してお店を回ろうとしただけで疲れてしまいました。また、ハンバーガー屋で飲み物を買うと、とても多くてすぐに飲みきれませんでした。二つ目のアメリカの良さとして、英語には敬語がないからか、会話が硬くならないと感じました。

次に、日本の良さとして、治安がいいということに気づきました。特にそれを感じたのは、ホストファミリーと野球観戦に行ったときに、透明のバッグしか持って入ってはいけないと言われた時です。その時、Nika が、「アメリカでは遊園地やスタジアムに入るときに、危ないものを持ち込ませないためにこういうルールがあるんだよ」と、教えてくれました。さらに、アメリカでは席を取っておくために荷物を置くのはとても危険だったり、肩掛けのバックを後ろに回すことも不安になってしまったりしました。また、日本はアメリカに比べて衛生的であることに気づきました。サンフランシスコに行った帰りの電車で、トイレがとても臭く、座席までそれが匂ってくるということがありました。その時は、アメリカではじめて日本に帰りたいと思いました。

このほかにも、日本にもアメリカにもいい部分とがっかりした部分がたくさんあることに気づきました。

今回のホームステイでは、初めて経験したことがたくさんあり、とても楽しく、充実した生活を送ることができました。今回学んだことを将来にも生かしていきたいと思います。

また機会があれば、ぜひアメリカに行きたいです。

# パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第一中学校　鈴木　葉結

私はパロアルト派遣を通して、日本では感じることのできない貴重な体験をしてきました。

私は英語が苦手だったので、パロアルトに行く前はうまくコミュニケーションが取れるか、バディやバディの家族に迷惑をかけないかなどとても不安でした。しかし、空港に着いて外を見渡した瞬間、大きな建物、広い道路など見たことのない景色が広がっていて、いつの間にか不安もなくなり「どんな思い出を作れるだろう」ととても興奮しました。

バディと初めて会ったとき、積極的に話したり質問したりすることはできませんでしたが、英語に慣れていなかったため初めはなかなか聞き取ることができませんでした。でも、時間が経つにつれて少しずつ英語にも慣れてきて、コミュニケーションがとれるようになりました。ホームステイではバディと家族のみんながいつも気にかけてくれて、パロアルトの生活にもすぐに慣れることができました。

また、バディがサンフランシスコのいろいろな場所を案内してくれました。その場所がどんな場所で、どのような歴史があるか詳しく説明してくれました。思っていた以上に、日本に関連する建物やお店が沢山あり驚きました。

私が特に印象に残っているのは、Greene 中学校に行ったことです。日本とは違い、教室に自分たちが移動して授業を受けたり、食堂では好きな人と自由に会話しながら楽しく食事をとったりと、とても明るい印象でした。バディとバディの友達と一緒にランチを食べたのがとても楽しかったです。授業の内容はとても難しく、日本語と英語と体育の授業がなんとか理解できた教科です。グループに分かれて、みんなで話し合って課題を解決していました。日本ももっとアメリカのように、自由で自主的に興味のあることを選択して学べる学校になったらいいなと思いました。

また、ホストデイでは、初めてピックルボールを体験しました。今までピックルボールというスポーツを聞いたことがなかったので、どのようなスポーツか分かりませんでしたが、実際にやってみるととても楽しくて「もっとやりたい！」と思ってしまうほどはまってしまいました。家族や友達を誘って日本でもやりたいと思いました。

私は今回の短期留学で、見たことのない大自然を目の当たりにしたことや、どこへ行っても現地の人々が気軽に声をかけてくれる文化に触れ、アメリカと日本のスケールの違いや人との関わり方の違いについて知ることができました。今回の経験を通して、自分の将来との向き合い方が大きく変わりました。この経験を糧にこれからも夢に向かっていろいろなことにチャレンジしていきたいと思います。

このような貴重な機会を与えてくれた市役所の方々、先生方、そしてパロアルトのバディとそのご家族、パロアルト派遣に関わってくださったすべての方に感謝しています。

本当にありがとうございました。

# アメリカでの学び

土浦第二中学校　松本　朋

交換留学に参加することは二回目で不安もありましたが、それ以上に楽しみでした。アメリカに着いたときは、なかなか実感が湧かず戸惑いがありました。ですが、バディやホストファミリーをはじめ、その他沢山の現地の方々が温かく私たちを歓迎してくれて、胸が熱くなりました。

ホストデイでは、ホストファミリーと一緒にアメリカの街並みを体感しました。そこでは日本にはない文化を目で見て知ることができました。例えば、道路にはたくさんの車が止まっていました。ですが日本では違反になってしまいます。それがとても違和感があり不思議でした。

学校訪問の時も、日本との学校の違いに戸惑いを感じました。授業風景、活動の仕方。ランチタイム、全く違っていました。文化の違いを感じられて楽しい時間でした。また、バディの子が習っているバレエを見学させてもらったり、夕食後にカードゲームをして遊んだりと仲を深めることができました。

最初の頃、完ぺきではない英語を話すことが恥ずかしくて抵抗がありました。ですが、学校でも家でも皆がフレンドリーに声をかけてくれたり、「間違えても良いから気楽に話しかけて。何でも教えるよ。」と言ってくれたりしてチャレンジしようと思い、実行できました。この言葉によって悔いの残らない充実した生活を送ることができました。

アメリカに行くことを応援してくれた友達、そして何より私のチャレンジを快く受け入れて実行させてくれた家族全員に感謝しています。このような機会を与えてくださりありがとうございました。アメリカで吸収してきた様々なことをこれからの人生に活かしていきます。

# パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第二中学校　福田　優那

私は２０２４年３月に土浦市中学生交換交流事業を通じて、アメリカ・パロアルト市を訪れました。パロアルト市では、ホストファミリーの家にホームステイし、バディのエミと JLS school に通いました。JLS school では、日本と同じように授業を受けました。特に印象に残った授業は、体育です。体育では、エミのクラスメイトとフットボールをしました。私が活躍した時に、「Good job」と言ってくれたり、ハイタッチをしてくれたりとフレンドリーで明るい対応がすごくうれしかったです。

今回のパロアルト派遣を通じて感じたことは、アメリカ・パロアルトの人たちは自由さや個性・自分らしさを大事にしているところです。学校やホストデイで行ったサンタクルーズでも、髪型や髪色、服装など自由・個性を感じました。そして、個性があってとても素敵だなと思いました。また、出会った皆はフットボールの時もそうでしたが、とてもフレンドリーで沢山話しかけてもらったり、自分の感情をオープンに出していました。

これらの体験や感じたことを通して、これからは自分もパロアルトの人たちのように積極的にフレンドリーに接することを実践していきたいと思いました。また、エミや学校の皆と交流を持ったことで、もっと英語でコミュニケーションをとりたいと感じました。引き続き英語の勉強をして、またエミやエミの家族に会いに行きたいです。その時は、英語がペラペラになっているでしょう！

# パロアルト派遣をして感じたこと

土浦第三中学校　中谷　優菜

私は、今回のパロアルト派遣を通して驚いたことや学んだことがあります。アメリカの学校での違いは、まずクラスがないことです。アメリカの学校は自分のクラスがなくて教科ごとにそれぞれ移動しています。荷物はロッカーに入れます。学校でお菓子を食べていたり、髪型や服装も自由で、少し羨ましく思うルールもありました。授業では、みんな積極的に手を上げて発表をしていたり、静かにしなきゃいけないときにはちゃんと静かに集中してやっていたりと、けじめがついていて見習うべきこともたくさんありました。

アメリカの生活面でも驚きの連続でした。まずは言語です。私はアメリカでは英語が公用語だと思っていましたが、中国語やロシア語、フランス語などたくさんの言語が使われていたことです。次に料理です。一回の食事の量が多くてすぐにお腹いっぱいになってしまいました。料理の味も濃くとても美味しかったです。特に美味しかった料理は In-N-OutBurger のチーズハンバーガーが美味しかったです。他にもシャワールームとトイレが一緒になっていたり、日本と違う面では戸惑いもありましたが、少しずつ慣れていきました。

ヨセミテ国立公園では、迫力ある滝や自然に圧倒されました。こんなに自然を感じる事が今までなかったので、とても感動しました。たくさんパワーをもらえました。

今回特別に、前回私の家にホームステイに来てくれたバディの家に行ける機会を作ってくれ、久しぶりに会うことが出来ました。このように、これからも交流が続いて行けたらと、心から思いました。

派遣生として感じたことは、物事を広い視野で見られるようになったことです。前までは主観的に物事を見ることが多かったですが、いろいろな経験をしたことで、少しでも視野を広くすることできるようになったと思います。

このような貴重な体験に参加させていただきありがとうございました。この経験を将来に活かしていきたいと思います。

# パロアルト派遣を通じて感じたこと

新治学園義務教育学校　秋葉　紀乃

私は、今回のパロアルト派遣を通して、初めて他国の文化にふれ、様々なことを経験することができました。

私が、この派遣に参加した理由は、学年主任の先生に勧められたことと海外に興味を持っていたことです。旅行では不可能なホームステイの体験、現地での英語の会話を経験できるのではないかと思い、自分の中で行こうと決断することができました。

まず、学校では、毎時間教室を移動し、毎回違う生徒と授業を受けました。さらに、服装は私服でメイクをしていたり、スマホを持ち歩いていたり、授業中にガムを噛んでいたりなど日本とは全く違う自由さに溢れていました。

また、現地の人はフレンドリーで優しくて、簡単な英単語しか話せない私に「Hi!」「How are you?」と話しかけてくれ、とても嬉しかったです。この際に改めて、コミュニケーションの大切さを感じました。

ホストファミリーはみんな優しくて、私を安心させてくれ、さらに気軽に話してくれる最高のホストファミリーに出会うことができました。日常で会話する中で必要な英語を学ぶこともできたし、しっかりとした発音に慣れることもできました。

最後に、簡単な英語しか話せなかった私ですが、この派遣を通して、英語を上達させることができました。また新たな知識もたくさん増え、将来に役立つ良い経験をすることができました。もっと英語を上達させ、すらすらと話せるようになりたいと思っています。このような体験の場を設けてくださった土浦市の皆様、関係者の皆様、ホストファミリー、ありがとうございました。

# パロアルト派遣を通して感じたこと

土浦第一高等学校附属中学校　川村　怜愛

私はパロアルトに滞在し、アメリカのスケールの大きさに驚きと感動の連続でした。ホストデイには、海の近くのファミリーおすすめのサンタクルーズの遊園地で絶叫アトラクションに乗りました。海岸では、犬のBeenie とホストファミリーで砂浜を走ったり、ジープに乗ってドライブしたりしました。サイクリングをして本場のハンバーガーやアイスを食べに行ったり、真夜中に満点の星空を見に行ったりもしました。ワイルドアメリカ感を味わえました。

また、中学校訪問では多種多様でたくさんの人種のお友達がいることに驚きました。最初はみんなの英語のスピードに驚きましたが、とてもフレンドリーに接してくれて、慣れてくると色々な国の友達とコミュニケーションをとることができるようになり、ジョークを理解して自分でも返せるようになってとても楽しめました。授業も９０分の長い授業と３０分の短い授業がありたくさんの教科を体験できて、移動が忙しいのがまた新鮮でした。歌いながらダンスを踊り、文法を覚えたり、自分の感情や考えることを大切にしつつ楽しみながら学ぶというスタイルがアメリカらしい開放感とグローバルな空間でよかったです。

一方で、デジタル化の進化にはとてもびっくりしました。街を走る自動運転の車や街並み、決済端末の iPad 化、デジタル教科書などからも感じられ、日本にも間近にせまっているのだなと思いながらついていかなくてはいけないと感じました。

そしてもう一つ、私の何よりの収穫は一生の友だちができたことです。アメリカにも家族がいることがとても嬉しいです。

# パロアルト派遣を通して感じたこと

土浦第一高等学校附属中学校　草間　千晴

私は英語が話せるようになりたい、海外に行ってみたいという憧れからこの事業に応募しました。しかし、この１０日間で得たものは想像していた何百倍も濃いもので、憧れていたことが英語を話せるようになるという目標に、そして、国際的な仕事につきたいという夢に変わりました。

私は英語で話すことに苦手意識があった上、長時間のフライトで疲れていたのもあってか１日目はバディとうまくコミュニケーションがとれず焦りと不安が押し寄せてきました。でも、翌日のホストデイでたくさんの場所に連れて行ってもらい、バディとともに楽しい時間を共有できたことで少しずつ心が打ち解けていく感じがしました。そして明日はもっと自分から話しかけてみようと決めると、日を追うごとに英語でコミュニケーションが取れるようになっていきました。バディとふざけて笑いあえたときの嬉しさはずっと覚えています。この体験からは失敗を恐れず積極的にチャレンジすることの大切さを身に染みて実感しました。

また、現地の学校は日本とアメリカの違いをたくさん感じられる場でした。アメリカは日本と違って多民族国家であるため、たくさんの人種の子がいました。私はそれに驚かされましたが、それはバディなど現地の人にとっては当たり前のことでみんな別け隔てなく接し、とても仲が良いことが印象的でした。それは自分にとって今までなかった世界だったのでとても新鮮でした。このように自分とは異なる国の人と接し、相手のことを知るということの楽しさからもっといろいろな国のことを知りたいと思うようになりました。

私がこの事業に参加するまで見えなかった世界を知れたこと、夢や目標をもてたことなど自分にとってたくさんの財産を作ることができました。この事業に参加して本当に良かったです。

このような貴重な経験をさせて頂いたことに心から感謝しています。ありがとうございました。

# パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第一高等学校附属中学校　田谷　凛花

私は元々、英語圏へのホームステイというものに憧れており、観光として行くだけでなく英語しか使えない環境に行ってみたいという気持ちがあり、今回の交換交流事業を聞いてすぐさま応募しました。

現地に着いてホストファミリーと対面したとき、緊張であまり上手く会話は出来ませんでしたが、最終日くらいには意思疎通が英語でスムーズに出来るほどになっており、自分自身でも成長を感じることが出来た１０日間となりました。

実際に学校に行ったり街を歩いたりしているとアメリカと日本の違いが沢山感じられ、そのことについてバディに伝えるのもとても楽しかったです。特に現地の学校では、ピアスやネイル、髪染め、化粧など日本のほとんどの学校では禁じられていることが許可されており、日本の校則について教えると大変驚かれました。

バディとは、家でお互いの生活について教え合ったり、庭で運動して遊んだりと沢山の楽しい時間を過ごしました。拙い英語で会話していたのですが、彼女から英語が上手だと褒められたときはとても嬉しく、代わりに日本語を教えてあげたりなどしていました。

最後に、このような貴重な体験をさせてくださった土浦市役所、土浦市国際交流協会の皆様、そして両親に感謝の気持ちでいっぱいです。今回のこの事業を通して、私の視野が大きく広がった気がします。この経験を自分の将来につなげていこうと思います。本当にありがとうございました。

# １０日間のホームステイを通して

常総学院中学校　河内　柚衣

私は、幼いころに両親からもらった世界の国の図鑑をきっかけに海外の生活や文化、考え方に興味を持っていました。学校の先生によってこの企画を知り、もっと多くの人と交流をしてみたい、海外の文化や生活、考え方など海外旅行だけじゃ分からないことを学びたいと考え、参加を決意しました。

当日、バスから降りると、バディが自分のネームプレートを持って笑顔で待っていてくれました。歓迎パーティでは、見たことのない料理やお菓子、野菜が並んでいて、とても驚きました。特に、人参を生でお菓子のように食べているというのを聞いて、日本との一つの違いだなと感じました。家に行って、お土産を渡したときに、とても喜んでくれて本当にうれしかったです。ホストファミリーに日本の学校生活や、ここと違うところについて聞かれた際に、全員給食を食べることやお菓子を持ち込んではいけないこと、人参はあまり生では食べないことなどを話すと、とても驚いていて、やっぱり日本とは結構違うところがあると感じました。

ホストデイでは、ハイキングやカヌーをしたり、映画を見たり、アイスを食べに行ったりしました。ハイキングへ向かう車の中では、お互いの国のおすすめの音楽を流しあいました。その曲の中に、バディの知っている曲や歌手もあり、海外で知られているのは意外だったので驚きました。ハイキングでは、長い距離を歩いたためとても疲れましたが、終わった後にみる景色はとてもきれいで、ハイキング中に狐や鹿などの動物に出会え、とても楽しかったです。

学校は、なにもかもが日本と違い、驚きの連続でした。まず、授業時間に驚きました。月曜日は３０分授業、それ以外の曜日は１時間３０分授業でした。私の学校は５０分授業ですが、１時間３０分も集中できていることに驚きました。また、学校でお菓子を食べていいというルールにも驚きました。生徒が授業中に意見を言えたら一つのお菓子をあげている先生や、生徒が教室に来られたらお菓子をあげている先生、家で育てているオレンジを授業終了時に配っている先生がいました。そして、お菓子や食べ物によって生徒とより良い関係を作れているということに気がつきました。これらは、生徒が授業に真剣に取り込める理由の一つにもなっているのではないかなと考えました。

今年の春休みには、自分の人生を大きく変えるような経験をし、価値観の幅を拡げることができたと感じました。この成長を活かし、何事にも楽しもうという気持ちで挑戦していきたいです。

## ～パロアルト派遣を通じて～

土浦日本大学中等教育学校　川田　明日香

私は、今回の「令和６年度土浦市中学生交換交流パロアルト派遣」に参加に際して『やろうと思ったことをやってみる！』と心に決めていました。

私は、アメリカという大きな国でやってみたいことを心に、日本を旅立ちました。とは言っても、「アメリカのマックを食べる！」とか、「アメリカの小銭を使えるようになる！」とか、「アメリカの学校で友達を作る！」とか、「話をするときは笑顔を心がける！」などの小さな目標です。しかし、これらを持っているだけでアメリカに行くのが楽しみで仕方がなかったです。実際、私は笑顔を心がけて、ホストファミリーはもちろんのこと、ロシア人と朝鮮人の生徒とも仲良くなり、連絡先を交換しました。しかし、マックのハンバーガーを食べることはスケジュール的に厳しく、叶いませんでした。また、小銭の使い方もままならず、レジの人任せとなってしまいました。今回の派遣では残念ながら叶わなかったことは他にもいくつもありますが、その心残りがあるからこそ、私はまたアメリカに行きたいと思うことができています。失敗ばかりで、つらくて、泣きたい日もあったけれど、楽しかったこと、次にやりたいことがあるからこそ、私はくじけてはいないのです。

これは、日々の生活でも一緒だと気がつきました。何かの行事があるたびに小さな目標を立て、次につなげていく。今回の派遣では、このことの重要さに気づくことができました。

とても貴重な体験をすることができました。事業に関わってくださった方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

# パロアルト派遣を通して感じたこと

土浦日本大学中等教育学校　澤村　明歩

私がこのパロアルト派遣に参加しようと思った理由は、海外と日本の相違点を知り、英語に直接触れる機会を持ちたかったからです。バディやホストファミリーがやさしく話しかけてくださったおかげで、１０日間安心して沢山楽しむことができました。アメリカは日本と違うところが多くあり、とても驚きました。

日本より自由だったので、はじめは少し怖いイメージを持っていましたが、優しい子がほとんどで学校も楽しむことができ、英語に触れることもできてうれしかったです。又、毎時間移動教室で人それぞれ受ける授業が違いました。英語が苦手で発音がうまく出来なかったときに優しい言葉をかけてくれてうれしかったです。学校が不安だった私の緊張をほどいてくれて、これをきっかけにたくさんの人と話すことができました。

そしてホームステイ先です。バディやバディのお姉ちゃんと日本の文化である折り紙をしたり絵を描いたりお菓子作りや編み物をしました。どれも本当に楽しくて最高の思い出になりました。

正直、派遣前は不安や緊張で行くのが怖かったです。ですが、行ったらとても楽しくて１０日間では時間が足りなかったです。この派遣を通して、参加理由としていた日本とアメリカの相違点を知ること、そして英語を少し好きになることができました。このような素晴らしい機会を設けてくださり、ありがとうございました。この機会がなければ英語が苦手のままだったので参加して本当によかったです。とても最高の思い出になりました。本当に本当に楽しかったです。本当にありがとうございました。

# 多様な文化

土浦日本大学中等教育学校　渡邉　芽依

実際にパロアルト市に行ってみると、私が想像していたよりも楽しいけれど、慣れない生活でとても思い出に残った数日間になりました。私はパロアルト市に行って国を超えた友達を作りたい、日本とアメリカの文化や生活の違いについて学びたいと思い、この交換事業に参加しました。

私はあまり英語が得意ではなかったので、最初はホストファミリーや学校の友達とどのように話せばいいのかわからなくて難しい時もあったけれど、バディと K-POP の好みが同じだったり、知っている単語で簡単な文章を作って伝えると理解してくれて、少しずつ英語で上手に会話ができるようになりました。するとコミュニケーションを取るのがとても楽しくなり、私の苦手意識をなくしてくれました。

そして私が今回このホームステイで１番心に残っていることは、現地で行った JLS 中学校では、言語の違いがあっても多くの人が壁を作らず接してくれた事が、とても印象に残っています。そのおかげで、たくさんの友達を作ることができました。これは目標の一つでもあったのでとても嬉しかったです。

私が日本に帰る時、ホストファミリーと離れるのがとても寂しく感じ、このホームステイが私にとってどれだけ大きいものになったのかよく分かりました。今回のホームステイでの経験を私の将来にも活かしていきたいと思いました。貴重な体験をさせてくださり、本当にありがとうございました。

## ５ 引率者より

（１）土浦市立土浦第一中学校　教諭　磯西　治子

今回、中学生交換交流事業の引率者の一人として、１４名の中学生とともに、土浦市の姉妹都市であるパロアルト市に行ってまいりました。

出発前の研修の様子からも、参加する中学生たちは、自分たちで考え協力して解決していこうとする意欲があり、自分の意志で参加を決めたとは言え、生徒たちの志の高さに驚くとともに、頼もしさを感じていました。

実際、出発から帰国の途につくまで、中学生たちは、どの場面でも笑顔を絶やさず、すべての体験を楽しもうとしていました。文化や慣習の違い、言葉の壁もある中でも、ホストファミリー、バディ、そして歓迎してくれた人々への敬意を忘れませんでした。相手の話す英語を笑顔で聞き、誠心誠意答える姿を見て、中学生という多感な時期に、異なる文化を実際に体験することは、自分自身の成長のみならず、他者理解・異文化理解という点でも有意義だと感じました。

帰国する直前は、生徒たちは口々に、「やっと慣れてきたのにもう帰らなくてはいけない。次はもっと長いホームステイをしたい。」と言っていました。その言葉から、国を超えた友情と信頼を通してしか得られない、大きな自信と成長を感じました。

そして、忘れてはならないのは、中学生たちがたくさんの思い出と素晴らしい経験を支えてくれたパロアルトの方々のおもてなしです。日本は「おもてなしの国」と言われている一方で、まだ海外の人を受け入れることに躊躇する場面がありますが、パロアルトの人々は心から歓迎してくださるのを感じました。どの方と話をしても、「パロアルトでホームステイができてよかったですね。」と言われました。それほど、パロアルトは治安が良い上に、知識、教養、経験に裏打ちされた思いやりの文化がありました。そのお陰で、出発前に抱いていた不安は、跡形もなく消え去ってしまいました。それどころか、あまりにも歓迎してくださるパロアルトの方々を見て、逆の場合、私たちはここまで歓迎することができるだろうか、という思いが浮かんできました。なぜ、言葉も文化が異なる人たちを歓迎することを、当たり前のようできるのかを考えた時、答えの手がかりとなったのは、学校教育でした。パロアルトの中学校には、至るところに多様性について考えさせるポスターがあり、Compassionate(思いや

り)Aware(相手の存在を認識する)Responsive(素早い反応)Empathetic(共感)Supportive（支援）の頭文字をとった「C.A.R.E.S」と書かれた学校方針のような掲示物もよく見かけました。確かに、様々な背景の人たちが多い地域では、違いを強調するよりも、お互いに敬意を持ち、共感し、支え合うことが大切で、そのことにより、地域全体のつながりが強くなっているように思えました。改めて、学校教育における多様性の重要性を認識することができました。

また、日本では大きな問題である不登校の問題について、パロアルトの中学校の様子を質問したところ、コロナ後は、日本と同じように問題があることがわかりました。どのような対応をしているか尋ねたところ、生徒が登校したいと思えるようなイベントを実施したり、登校したらご褒美シールのようなものをあげたりするようなことを行っており、不登校生徒の解消に向けて、日本と同じように、一人一人の生徒のために、試行錯誤しながら取り組んでいることがわかりました。「SCHOOL IS SECOND HOME」と書かれているポスターもたくさんあり、生徒たちの心理的安全性が高められるよう考えられていることがわかりました。

帰国後の報告会では、「この経験を通して、将来についての考え方が変わりました。」と話す生徒がいました。その生徒の言葉を聞いた時、この交換交流事業で多くの素晴らしい出会いがあったことを知り、とてもうれしく思いました。私自身、パロアルトの方に、「ヨセミテに行くと人生が変わるよ。」と言われましたが、実際ヨセミテを訪れて、その意味を理解しました。出会いは、待っていても訪れません。自分の意志で動いた時、チャンスは訪れるものです。そして、応援してくれる人は、周りにたくさんいるはずです。今回参加した中学生は、ご家族をはじめ、たくさんの方々の支えがあって、素晴らしい体験ができました。この交換交流事業を通して経験したことを活かし、日本とアメリカの架け橋になってほしいと思います。

最後になりますが、この交換交流事業を支えてくださっている、土浦市国際交流協会の皆様、ネイバーズアブロードの皆様、土浦市長安藤真理子様はじめ各関係部署の皆様、教育委員会の皆様に深く感謝を申し上げます。私自身、今回の交流で、多くの出会いと学びがありました。パロアルトで経験したことを、今後の学校教育でお返しすることが私の責務と考え、これからも一層励んでいきたいと考えております。

（２）市民活動課国際係　唐田　壮

今回の派遣事業は令和元年３月からコロナ禍を経ての５年ぶりの再開となり、様々な状況が変わったなかでしたが、そのようななか 14 名の生徒が手を挙げ、実施にいたりました。私からは、引率者として現地での派遣生の様子などを感想とともに記します。

派遣に向けて、３回の事前研修会を行い、パロアルト市の予備知識や基本的な英会話表現を学んだほか、現地での交流会の内容を計画しました。交流会の企画は、生徒主体で行いました。３回の研修会で皆があっという間に仲良くなり、活発に企画を立てていたことをよく覚えています。

新治地区公民館で結団式を行い、いよいよ出発。パロアルト市に向かう道中では、不安や緊張を抱いている様子を見せながらも、楽しみにしている様子の生徒も多く、ドキドキとワクワクが入り混じった空気を感じました。

約 10 時間のフライトを経て、遂にパロアルトに到着すると、バディやホストファミリー、ネイバーズアブロードの皆さんが国旗を振って盛大に出迎えてくださいました。派遣生たちは待ちに待ったバディとの初対面で、写真を撮ったり笑顔で会話したり、あっという間に打ち解けていました。

翌日からはそれぞれのバディの学校を訪問し、実際に授業を体験しました。派遣生は大学のような選択制の授業など、日本の中学校とは異なる授業方法や学習環境に驚きながらも楽しんでいるようでした。授業内で堂々とプレゼンテーションをする姿やバディ以外の子どもたちとも仲良く話す姿にはとても驚き感心しました。

滞在中には、ヨセミテ国立公園やサンフランシスコ市内も訪れました。ヨセミテでは、凄まじいスケールの大自然に圧倒され、アメリカの巨大さを体感したようでした。サンフランシスコでは、フィッシャーマンズワーフなど市内の名所を訪れました。電車や地下鉄・バスを利用して巡ったことで、現地の人々のリアルな日常生活を体験できたことは新鮮な思い出になったことと思います。

ホストファミリーとの共同生活では、食事や生活様式の違いなど、日本との文化的な違いを体感できたようでした。

10 日間の滞在を終え帰国する時には、疲れた様子はあったものの、自信に満ちた顔に変わっていたように見えました。日本語が通じない環境で、自分で精一杯考えてコ

ミュニケーションを図り生活する体験を経て、派遣生たちは精神的にも大きく成長したことと思います。

私自身も、今回の経験を通じて、異文化理解の大切さや多様性を受け入れる力を育むことの重要性を感じました。これからもこの事業が続き、土浦市の多くの生徒がパロアルト市の生徒と交流していってほしいと願っています。

結びに、今回の事業実施にあたりパロアルト市ネイバーズアブロードの皆様をはじめ、国際交流協会・学校関係者、保護者の皆様に多大なご協力をいただいたことに感謝申し上げます。今後もこの事業が続き、両市の友好関係が末永く続くよう一職員として邁進していきます。派遣生の皆さんが次代を担う一員として活躍してくれること、土浦市とパロアルト市の友好のかけ橋のような存在となってくれることを期待しています。

# 受入れの部

## 1　参加者名簿

| No. | 土 浦 市 | | | パ ロ ア ル ト 市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 氏 名 | 学校名(学年) | 性別 | 氏 名 | 学校名(学年) | 性別 |
| 1 | 大屋 諒 | 土浦第一中学校 9年 | 男 | ・Nathan Wong<br>・Benjamin Rosen | ・JLS 中学校 8年<br>・JLS 中学校 8年 | 男<br>男 |
| 2 | 藤原 万緒 | 土浦第一中学校 9年 | 女 | Nika Ploesser | Greene 中学校 7年 | 女 |
| 3 | 鈴木 葉結 | 土浦第一中学校 9年 | 女 | Julia Ni | Greene 中学校 7年 | 女 |
| 4 | 小野 莞治 | 土浦第一中学校 7年 | 男 | Jianting Liu | JLS 中学校 8 年 | 男 |
| 5 | 松本 朋 | 土浦第二中学校 9年 | 女 | Siyuan Claire Huang【来日せず】 | JLS 中学校 8年 | 女 |
| 6 | 福田 優那 | 土浦第二中学校 9年 | 女 | Emi Golbus | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 7 | 中谷 優菜 | 土浦第三中学校 9年 | 女 | Isabella Liang Paglia | Greene 中学校 7年 | 女 |
| 8 | 秋葉 紀乃 | 新治学園義務教育学校 9年 | 女 | Aria Agarwal | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 9 | 田谷 尚寛 | 新治学園義務教育学校 7年 | 男 | Kai Russel | Greene 中学校 8 年 | 男 |
| 10 | 川村 怜愛 | 土浦第一高等学校附属中学校 2年 | 女 | Fiona Buchholz | Greene 中学校 7年 | 女 |
| 11 | 草間 千晴 | 土浦第一高等学校附属中学校 2年 | 女 | Jane Han | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 12 | 田谷 凛花 | 土浦第一高等学校附属中学校 2年 | 女 | Isabella Wang | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 13 | 河内 柚衣 | 常総学院中学校 2年 | 女 | Diya Contractor | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 14 | 川田 明日香 | 日大中等教育学校 2年 | 女 | Soane Pauliac-Vaujoir | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 15 | 澤村 明歩 | 日大中等教育学校 2年 | 女 | Juliette Mermod | JLS 中学校 7年 | 女 |
| 16 | 渡邉 芽依 | 日大中等教育学校 2年 | 女 | Luna Han | JLS 中学校 7年 | 女 |

## パロアルト市側引率者

| No. | 氏　名 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 1 | Evelyn Shimazaki | ネイバーズアブロード副会長(土浦担当) |
| 2 | Nodelyn Smith | ネイバーズアブロード副会長(教育担当) |
| 3 | Doug Smith | Nodelyn Smith さんの夫 |
| 4 | Songli Wang | Isabella Wang さん<br>(土浦一高附属中 田谷さんのバディ)の父 |

## ２　受入れ日程

| | 月日 | 時間 | 日　程 |
|---|---|---|---|
| 1 | 令和6年<br>6月７日<br>(金) | 17:15<br><br>17:30 | パロアルト市一行は、この日まで関西研修。<br><br>パロアルト一行土浦駅到着(ときわ 69 号)<br><br>●対面式(土浦市役所本庁舎)<br>終了後、ゲストとともに帰宅→ホームステイ開始。<br>＜ホームステイ＞ |
| 2 | 8 日(土) | 10:00 | ●向上庵訪問<br><br>終了後、ホストデイ(ホストファミリーと過ごす)。<br>＜ホームステイ＞ |
| 3 | 9 日(日) | 終日 | ●ホストデイ(ホストファミリーと過ごす)<br>＜ホームステイ＞ |
| 4 | 10 日(月) | | ●日光研修　※パロアルト生徒、引率者のみ<br>＜日光泊＞ |
| 5 | 11 日(火) | 午後<br><br>夕方 | ●日光研修　※パロアルト生徒、引率者のみ<br><br>バスが日光から帰着<br>＜ホームステイ＞ |
| 6 | 12 日(水) | 終日 | ●学校訪問(ゲストはホストとともに各中学校へ)<br><br>※パロアルト市引率者:<br>午前／中学校訪問(新治学園、土浦一中)、給食試食<br>午後／中学校訪問(土浦一高附属中)、柴沼醤油見学<br>＜ホームステイ＞ |
| 7 | 13 日(木) | 午前<br><br><br>16:00<br>～ | ●学校訪問(ゲストはホストとともに各中学校へ)<br><br>●市長訪問<br><br>※パロアルト市引率者:<br>午前／中学校訪問(土浦二中、土浦三中)<br>午後／市長訪問　＜ホームステイ＞ |
| 8 | 14 日(金) | 朝<br><br>夕方 | ●東京見学　※パロアルト市生徒、引率者のみ<br><br>土浦駅帰着　＜ホームステイ＞ |
| 9 | 15 日(土) | 10:00<br>～<br>12:00 | ●答礼パーティー(都和公民館)<br><br>パロアルト市一行がバスで成田空港へ出発。<br><br>バス出発後の会場後片付け→解散 |

# ３　参加者レポート

## See you again in the US!

土浦第一中学校　大屋　諒

アメリカで共に学校生活を送った２人のバディを、我が家へ迎え入れました。初日は帰宅してすぐにポーカー大会をし、弟と僕を加えた４人で白熱した戦いを繰り広げました。しかし、バディたちはBluffingがとても上手で、我が家チームは惨敗でした。滞在中に４回もトーナメントを行い、一緒にポーカーを楽しみました。

ホストデイではひたち海浜公園に行きました。アトラクションの、ディスクオーに乗りましたが、絶叫系が苦手な僕は、乗車前からげっそりとしていました。バディたちは終始笑顔で、「soso」と言っていたので、アメリカのアトラクションは日本の何十倍も怖そうなので乗りたくないなと思いました。

学校体験では、バディは「日本の学校の授業は簡単すぎる」と言っていました。英語の授業で毎回最初に行う「surasuraEnglish」を、バディはとても面白がりながらやっていたのが印象的でした。帰宅後、「Sura sura English is too easy」と言っていたので、すらすらジャパニーズをやってみたところ、「難しい」と言っていました。自分の国の言語でなくなると急に難しくなる点が一緒で、すごく共感できました。

今回のホームステイを通して、バディと様々な経験を共有し、かけがえのない思い出を作ることができました。短い期間でしたがネイサンとベンジャミンとの出会いは、世界に対する考え方を大きく変えてくれました。言葉や文化の違いを超えた友情を築くことが出来たことに、心から感謝しています。また２人に会いにアメリカに行きます！

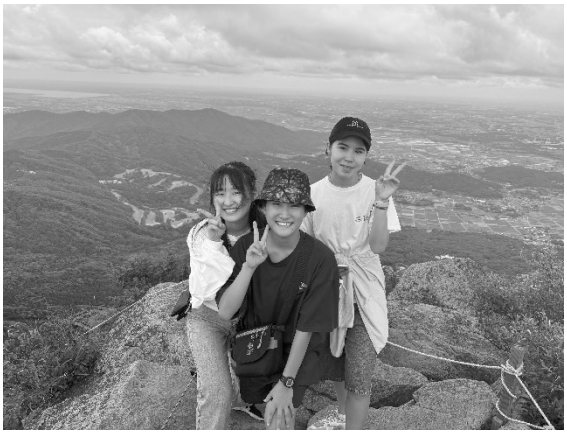
最後に、このような機会を作ってくださった土浦市長、市民活動課国際係の皆様ありがとうございました。

# 受入れを通して感じたこと

土浦第一中学校　藤原　万緒

今回、受け入れるにあたって、アメリカ人は普段からジュースやお菓子を好んで食べる印象がありましたが、バディは、お菓子はほとんど食べず、飲み物もお水を選んでいました。また、ハンバーガーも好きではないと知りました。勝手な先入観であり、個々に色々な趣向があることが分かりました。また、日本食が好きと言ってくれて、お寿司やラーメンを食べに行きました。家でも、一緒に巻き簾を使って太巻きを作ったり、餃子を包んだりしてとても楽しかったです。

次に、英語を話す時の姿勢についてです。バディと話す時、私の英語はあまり伝わらず、家族の英語が良く伝わっていて、少し悔しい思いをしました。母に聞いてみると、「簡単な英語を並べているだけだよ」と言われ、圧倒的な違いに気づかされました。それは、「自分の思っていることを伝えようとしているか」ということです。私はそれまで、派遣の時にあまり意識できていなかった文法を意識して話そうとしていました。すると、文が途切れ途切れになってしまい、聞き取りづらくなってしまったのだと思いました。それよりも、簡単な英語を使い、伝えたいことを端的にまとめた方が伝わっていたのです。これから、英語で話すときには、そのことを意識しながら話したいと思いました。



今回の受け入れで、相手の生活を理解したり日本の文化を紹介したりできて、とても良い経験になりました。この経験を、今後の学習や生活に活かしていきたいです。

# 私とジュリアの思い出の１ページ

土浦第一中学校　鈴木　葉結

「日本に来たらどんなことがしたいかな？」私はジュリアが来る前、とてもワクワクしていて待ちきれない思いでいました。ジュリアと再会した時、お互いに顔を見た瞬間自然と笑顔がこぼれました。家に入る時は、靴を脱いで室内に上がる事にとても驚いていました。何気ないところで文化の違いを感じました。

ホストデイでは、ひたち海浜公園で遊んだり、笠間で陶芸体験をしたり、ジュリアが１度食べてみたいという、うなぎを食べに行きました。特に印象に残ったのは陶芸体験です。ろくろを使って形を作るのは思っていた以上に難しかったです。しかしジュリアの方を見てみると、初めて作ったとは思えないほど上手に作っていてビックリしました。

クッキングモーニングでは卵パンケーキを作ってくれました。見た目は私の知っているパンケーキとは違いクレープのような料理でした。塩が効いていてとても美味しかったです。一緒に生活を送ることで更に友情を深めることができました。

私とジュリアの友情は永遠です。改めてこのような貴重な経験ができる機会に参加させていただきありがとうございました！

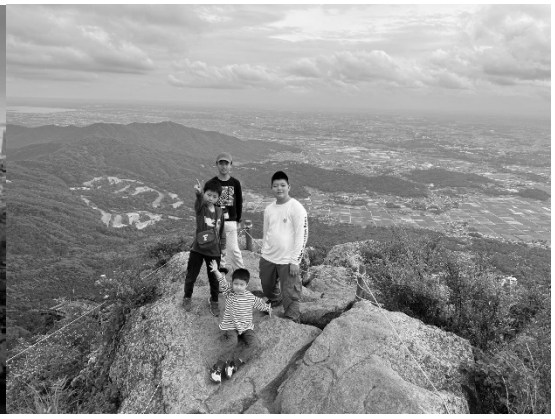
# 初めての留学生受け入れ

土浦第一中学校　小野　莞治

4月に留学生交換プログラムの話を聞いた時、僕は受け入れたいと強く思いました。Jianting を迎える準備をしている時は、会えた時のことを想像して楽しみな気持ちとドキドキが半々でしたが、対面式で会った時は緊張して何も話せませんでした。最初は単語で一言ずつでしたが、座禅体験をしたり、バドミントンをしたりして一緒に過ごすうちに、だんだんと話すことができるようになりました。自分の言いたいことが伝わった時は、とてもうれしかったです。

学校訪問では、クラスのみんなが Jianting を歓迎して積極的に話しかけていました。授業では習字をしたり、パロアルト市についての質問をしたり、お互いに理解を深められました。

僕は今回の受け入れで、初めて本場の英語に触れ、大切な友達ができました。何より面白いと思ったのは受け入れ期間の終わりの頃には、僕が日本語で話しても Jianting に伝わり、彼が英語で答えたら、僕もなんとなく分かるようになったことです。言語を超えた交流ができたと思います。いつかまた会えることが楽しみです。



# 最高の思い出

土浦第二中学校　福田　優那

６月８日、３カ月ぶりにEmiに会いました。会ったとき、凄く嬉しくてハグしたり、あと、身長を抜かれた気がしました。

最初の方は、Emiは日本語が理解できるから日本語で話していましたが、英語で話さないと意味がないと思い英語で会話するように心がけました。文で言わなくても単語を並べるだけでも意外と伝わったので、英語で話しかけてみる事が大事だと分かりました。

Emiと何日か一緒に過ごしてきて、「What’s up bro？」と言って、ハイタッチするあいさつがとても楽しかったです！

そのあいさつのおかげで、一気にEmiとの距離が縮まりました。また、友達のバディにも「What’s up bro ?」を沢山してたらとても仲良くなれました！！　あいさつは世界共通なんだなあと思いました。

私はずっと海外の人と交流をしたり、ホームステイをしてみたいと思っていたので、この交換留学で私の夢が一つ叶いました。このような貴重で素晴らしい経験をありがとうございました。

今回の交換留学がとても楽しかったので、またいつか留学するという大きな夢が１つできました。さらに英語を勉強して、コミュニケーション力を高め、夢に向かって頑張っていきます！

本当にありがとうございました。

ホームステイで体験したこと

土浦第三中学校　中谷　優菜

私は２回目のホームステイを体験する機会に恵まれました。今回は、パロアルトでイザベラと過ごした時間があったし、前回の経験もあったので、とても楽しみながら準備が出来ました。それでも久しぶりにイザベラに会ったときは少し緊張しましたが、時間が経っていくうちに緊張がほぐれました。

ホームステイが始まった一日目には座禅の体験がありました。私は３回目の座禅でしたが、イザベラは初めての座禅でした。座禅が終わった後は、石岡フラワーパークに行きました。スカイサイクルという乗り物に乗りました。とても楽しそうにしていたので嬉しかったです。

ホスト day では、イザベラの希望でショッピングに行きました。ゲームセンターで遊んだり、ガチャガチャをして楽しみました。

学校訪問では、みんなと仲良く過ごしていて安心しました。美術の授業では、すごく上手なカエルの絵を描いていました。体育の授業では、ダンスをしました。イザベラは体育が苦手で心配していましたが、笑顔で楽しんでいました。

今回の受け入れで大切だと思ったことが２つあります。１つ目はコミュニケーションの重要さです。完璧な英語を話そうとしていましたが、単語やジェスチャーで伝わることも多く、完璧な英語じゃなくても伝えようとする気持ちや積極性が大切なことに気づき、会話が弾むようになりました。

２つ目は主体性です。自ら行動したり考えたりすることがとても多かったので、主体性は大切だと思いました。

最後に、このような素晴らしい機会を作っていただきありがとうございます。とても貴重な経験でした。この経験を将来に活かしていきたいと思います。これからもパロアルトと土浦市の交流が続くことを願っています。

# 最高なホームステイ

新治学園義務教育学校　秋葉　紀乃

６月７日、３ヶ月ぶりにバディに会える時が訪れました。
バディに会えた瞬間嬉しくて飛び跳ねたりしていました。約２週間という短い期間でしたが、一緒に過ごした時間は貴重なものでした。

はじめは「完璧な英語を話せるようにしなくちゃ」と思い込んでいました。しかし、実際話してみると完璧な英語で話さなくても単語をつないで話してみたり、ジェスチャーで伝わる場面が結構多く、完璧な英語を話せなくてもコミュニケーションが取れることに気づきました。話そうという積極的な気持ちを持って話に行くことが私にとって大切なものだとわかりました。また、バディの Aria にはたくさんの英語を教えてもらい、Aria もたくさんの日本語を学ぶことができました。

バディの Aria は寿司が大好きだったので、ホームステイ中は何度かお寿司を食べました。その時、お箸を上手に使いこなしていてびっくりしました。また私は、言語だけを学ぶことができると思っていたけれど、文化の違いも学ぶことができることに気づきました。

言語の壁があって苦戦したこともあれば、文化の違いから、日本でのお風呂の使い方を理解できてもらえないなど、大変なこともありましたが、お互いの文化を認め、相手の言語に挑戦し、大切なことに気づくきかっけを作ることができました。

夢や目標がなかった私ですが、英語や他国について興味を持つことができました。さらに、将来は英語でコミュニケーションを取ることだけではなく、他国の言語や文化も学んでいきたいと思います。

関係者のみなさま、数多くの貴重な経験をありがとうございました。

# カイ・ラッセル君との思い出

新治学園義務教育学校　田谷　尚寛

僕は、今回のホームステイを受け、最初は何を話せばよいか分かりませんでした。ですが、兄たちのコミュニケーションを見て、英語が話せなくても伝わることがあると知りました。

カイ君に会う前に特技はマウンテンバイクと知っていたので、カイ君とのサイクリングは楽しみにしていた一つです。カイ君のパフォーマンスを見せてもらい、とてもかっこいいなと思いました。

カイ君の国では花火が禁止と聞いていたので、家で花火をやった時にはとても喜んでいました。あと、玄関にある下駄に興味を持っていたので、それに気づいた兄が内緒で下駄を用意してくれていて、それを履いて花火をやったのもすごく喜んでくれました。

家族みんなで笑いあって楽しめたのは、嘘を見抜くトランプゲームでした。嘘を見抜く駆け引きの中、嘘がばれないためみんなが必死の演技をしていたのがおもしろく、笑いが絶えなく楽しい時間でした。

９日間カイ君と過ごせた時間は、僕にとって最高の思い出になりました。コミュニケーションで伝わった事はたくさんあったけど、今度は自分で思った事を英語で伝えられるよう、英語の勉強をしていきたいです。

そう思わせてくれたカイ君に感謝します。ありがとうございました！

←ラクスマリーナに
乗って、サイクリング

山登りに
チャレンジ！！→

# フィオナと満喫したホストデイ

土浦第一高等学校附属中学校　川村　怜愛

御岩山と筑波山登山に行きました。宇宙から見えたという光を発した柱が見たいのと日本の美味しい食を楽しみたいと言っていたからです。山頂までいろいろな話をしながら登り、実際に光ったと言われている「光の石柱」を見てハイタッチをして喜びました。御朱印もゲットし、幸せを家族にお裾分けと電話をしているのを見て嬉しくなりました。お昼に豆腐専門店で、揚げ豆腐、焼き豆腐、豆腐ドーナツ、どら焼きを食べました。アメリカで食べたことのある豆腐と味が違う！と驚いていて、とても美味しいと言っていました。次に、筑波山にケーブルカーで登り、男体山と女体山をそれぞれ登頂しました。すれ違う人に「こんにちは」と挨拶をするという日本の山登りの文化をフィオナも覚え、挨拶も楽しんでいました。

もう１日は、着物を着て茶道体験をし、抹茶をたて、和菓子を食べました。夜には、蛍を見に行き、初めて見る蛍を追いかけました。蛍の写真も撮れて大喜びでした。日本の文化や自然にふれ、一生の友達も出来てよい思い出になりました。

ホームステイ受け入れを通して

土浦第一高等学校附属中学校　草間　千晴

私は３月にアメリカでホームステイをしたとき、別れ際にバディと「また６月に会おうね！」と話しました。バディとの別れはとても悲しかったので、３ヶ月ぶりの再会を、いまかいまかと心待ちにしていました。バディが到着し、会えたときはとても嬉しく、それと同時に私がしてもらった以上のおもてなしができたらいいなと思いました。

バディと過ごす約１週間は本当にあっという間で、いつもの生活にはない、非日常感を味わえました。バディは私の弟、妹ととても仲良くしてくれ、まるで本当の家族のように接してくれたことがとても印象に残っています。

また、この受け入れを通し、改めて日本という国の良さにも気づくことができました。バディと一緒に私の学校へ通ったときは、クラスのみんなが一生懸命英語を使ってバディとコミュニケーションを取り、たくさん話しかけてくれていました。最後のお別れのときはみんなとても悲しんでいましたが、バディが「学校、楽しかった！」と言ってくれたときはとても嬉しくなりました。また、ショッピングモールへ行き、バディが買い物をしているときのことです。バディがレジに行くと日本語が話せないと悟った店員さんがジェスチャーを使ってとても丁寧に対応してくれました。このように、日本にはおもてなし精神が日常にありふれているのだなと思えた経験でした。

最後の日、バディと別れたくないという思いでいっぱいでしたが、「必ずまた会おうね」と約束を交わしました。この約束が果たせるときまでに、たくさん勉強してもっともっと英語を流暢に話せるようにしようと思います。

この機会を通し英語をもっと話せるようになりたいと思えたこと、日本の良さを感じられたこと、そして国を超えた友だちを作れたことなどこの事業に参加して良かったと思うことがたくさんあります。本当にありがとうございました。

ベラのホームステイ受け入れを通して

土浦第一高等学校附属中学校　田谷　凛花

今年の３月、私はパロアルトのベラの家に約９日間ホームステイをし、現地の学校体験やサンフランシスコ観光など、ベラとその家族にとても楽しく貴重な経験をさせていただきました。

今回のホームステイ受け入れでは、自分がさせてもらった様にベラに楽しい思いをして欲しいという一心で、家族と協力しながら様々な計画を立てました。例えば、茶道体験や牛久大仏での写経、温泉、美味しい食事、ショッピングモールでの買い物などなど。また、学校体験では日本の学校の制服を体験して欲しいと思い、ベラの制服を用意したりしました。

３月に一回会っていたので、そこそこコミュニケーションは初日からとれたのですが、やはり初めての日本ということで緊張している様子でした。しかし最終日にはベラの方から私だけで無く家族にも積極的に話しかける様になり、もっともっと一緒に居たいと思いながらも別れを告げる事となりました。

なんと、ベラだけで無く、引率としてベラのお父さんも来ていたこともあり、みんなで(私と私の家族は拙い英語を使って頑張りながら)様々な事を話す事が出来ました。ベラのお父さんの仕事のこと、ベラの家での普段の様子、そしてこちらの事など…。ベラとベラのお父さんの話を聞いているうちに、もう一度パロアルトへ行きたいという思いが強くなっているのを感じました。

今回のホームステイ受け入れを通して、自分でも英語でのコミュニケーション能力が身についているのを実感しました。また、進路などは特に考えていませんでしたが、ベラやベラのお父さんとの会話を通して、もう一度アメリカへ行きたいという思いから、海外留学など自分のこれからについて海外も視野に入れて考えるきっかけとすることが出来ました。

この事業に関わってくださった市職員、国際交流協会の皆様、アメリカからはるばる日本までやってきてくれたベラとベラのお父さん、そして快く協力してくれ英語で頑張ってコミュニケーションを取ってくれた家族に深く感謝したいと思います。ありがとうございました。

# ホームステイを受け入れてみて

常総学院中学校　河内　柚衣

私は、今回初めてホームステイの受け入れをしました。受け入れが近づくにつれて再会に気持ちが高まる一方、バディをしっかりとサポートできるのか不安が大きくなりました。しかし、再会したときバディがかけよってハグをしてくれた時には不安は薄れました。

再会の時にバディが日本語を話してくれた時はとても驚きました。前回のホームステイの時、日本語を全く話せなかったバディが一生懸命日本語を話し、お互いに言いたいことが無事伝わった時の喜びは今でも忘れられません。

ホストデイでは、茨城観光をしました。大洗水族館では、魚の英語名を教えてくれてとても学びになりました。ホストデイではバディのおかげでいつも見ている景色や習慣でも、他の視点から見るととても面白かったり、素敵なものがあるということに気づくことができ、とても新鮮でした。

学校体験では、多くの先生方やクラスメイトがたくさんの協力をしてくれました。また帰る時には、盛大にお見送りをしてくれて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。学校体験はうまくいくか不安でしたが、バディがとても楽しんで体験してくれてとても嬉しかったです。

プログラム開始時こんなにも仲良くなれて交流ができるとは思っていなかったので、参加して本当に良かったと思いました。このプログラム関係者の方々、先生方やクラスメイト、両親のサポートが無ければこの交流はできていませんでした。本当にありがとうございました。

## 今回のホームステイ受け入れを通して

土浦日本大学中等教育学校　川田　明日香

留学生の受け入れは家族全員が初めてだったので不安な面もありましたが、過去の報告書を読み、経験者からたくさん話を聞き、「日本で楽しい思い出をたくさん作ってもらおう！」という気持ちで準備をしました。

一番心に残っているのは学校体験の日です。たまたま運動会が体験日と重なりましたが、先生の許可をもらえたので、彼女は私たちと一緒に玉入れや棒引きに参加しました。おそろいのＴシャツを着て、走って、転んで笑ったのは、とても良い思い出となっています。

家族と一緒に花火もしました。花火未経験の彼女は最初はどういうものか分からず、あまり乗り気ではありませんでしたが、実際にやってみたらとても楽しそうでした。ほかにも流しそうめんを一緒にやったり、手巻き寿司を食べたり、とんかつ屋さんに行ったりしました。彼女にとってはどれも初体験でしたが、美味しいと言って食べてくれました。

今回の留学生受け入れは私たち家族にとって、貴重な体験でした。受け入れをして共に生活することは不安であり、実践して難しい点もありましたが、心に残る素晴らしい経験となりました。私は外国の人と会話ができる事にとても喜びを感じたので、これからも英語の勉強を頑張って、海外の人達とおしゃべりしたいと思っています。

貴重な機会をくださった土浦市とパロアルト市の関係者の皆さまには心より感謝しております。本当にありがとうございました。

# かけがえのない思い出

土浦日本大学中等教育学校　澤村　明歩

今回のホームステイの受け入れは、アメリカでのホームステイとは異なる体験ができ、とても充実した楽しい９日間でした。会う直前まではドキドキしていましたが、３ヶ月ぶりにバディの Juliette と再会できてうれしかったです。以前より英語を少し話せるようになり、Juliette との会話も盛り上がることが多かったです。

ホストデイでは、笠間稲荷神社に行きました。Juliette は、百着ある浴衣の中から自分で着る浴衣を選ぶのが、楽しそうでした。笠間稲荷神社に到着後、街の散策をしたり、おみくじをひいたり、皿に絵を描いたりと様々な体験をし、より距離を縮めることができました。

学校体験では、体育祭に一緒に参加しました。体育祭は、アメリカにはない行事だったようで、Juliette は緊張していたようです。しかし、競技に参加する中で、笑顔が増えてきたので、安心しました。クラスメイトも積極的に英語を使い、コミュニケーションをとってくれました。Juliette も楽しそうでした。

９日間は長いと思っていましたが、実際は一瞬で、お別れの日はすごく寂しかったです。いろいろな偶然が積み重なって Juliette と出会うことができたので、改めてこの交換交流事業に応募してよかったと心から思いました。交換交流事業に携わってくださったみなさん、本当にありがとうございました。

# あっという間の９日間

土浦日本大学中等教育学校　渡邉　芽依

待ちに待った６月７日、２ヶ月ぶりにバディと再会できて本当に嬉しかったです。行きたい場所ややりたいことがたくさんあって毎日がとても楽しみでした。私たちがパロアルトに行ってホームステイをしたときとはまた違うことを学べると思い、とても楽しみでした。だけど、英語でしっかり話せるか、慣れない日本での生活を安心して過ごしてもらえるかなど家での生活にも不安がたくさんありました。今回のホームステイで１番印象に残っていることは、ルナが日本に来たことでより日本のことを好きになってくれたことです。日本に来てからは、簡単な日本語を言うと覚えてくれたり、日本食を美味しいと言って食べてくれたりと、私も日本についてもっと教えたいと思いました。

私が１番楽しかったのは学校訪問です。一緒にクラス T シャツを着られたり、クラスのみんなと協力して競技で勝つことができて、本当に嬉しかったし楽しかったです。この９日間は、とても早く感じ、貴重な時間を過ごすことができました。この交流事業が終わってもルナと友達であり続けたいです。

## ４ 土浦市生徒の保護者より

４人兄弟の日々

大屋　潤（土浦第一中学校　大屋　諒　保護者）

３月に息子がパロアルトに訪問した際、ネイサン君のお家に滞在させていただいたり、ベンジャミン君のレスリングのレッスンに参加させていただいたりと、学校や公園で三人で過ごす様子を見せてもらっていたので、土浦で再会出来るのを家族一同とても楽しみにしていました。

ネイサン君とベンジャミン君の二人を迎え、リビング横の部屋に滞在してもらったこともあり、彼らが家庭の中心の日々を過ごしました。

ネイサン君とベンジャミン君と息子達、四人が集まるといつの間にか遊びが始まり、兄弟の様に過ごす彼らを微笑ましく思い、楽しませてもらいました。また、四人の中ではナンバーが決まっており、初日から帰国するまで、写真を撮る時にはそれぞれのナンバーを指で表していました。

息子は、「日本を出ることで、日本を知ることが出来た。」と言い、彼らにとっても今回のホームステイがそうであったら嬉しいです。

ホームステイ後も、子供達４人はそれぞれに日本語と英語を学び続けていますので、再会した際には更に関係が深まることを期待しております。

土浦とパロアルトの両市の関係者の皆様には、大変お世話になり、有難うございました。姉妹都市交流の益々のご発展を祈念しております。

## 学び多き受け入れ体験

澤村　ゆかり（土浦日本大学中等教育学校　澤村　明歩　保護者）

娘が交換留学生募集のお手紙を見せてくれた時、「せっかくの機会だからチャレンジしてみたら」と後押しをしたものの、自分たちが受け入れ側になることは、受け入れ直前まで全くイメージができていませんでした。そんな中、受け入れ側として常に意識したことは、娘がアメリカでの生活を満喫させていただいたように、お預かりさせていただいたバディに、『とにかく日本での生活を楽しんでもらいたい』ということでした。

対面式での３カ月ぶりの再会、二人の嬉しそうな姿を見て、わたしも胸が熱くなりました。訪問２日目には、引率の方４名をお招きし、たこ焼きパーティーと花火を行いました。ご自分でたこ焼きを作られるのは初めてということで、楽しみながら行ってくださいました。

ホストデーでは、日本ならではの文化に触れてほしいという私たち家族の願いで、浴衣を着て、バディの希望であった笠間稲荷神社を参拝した後、笠間焼の絵付け体験を行いました。バディと娘２人の３人で熱心に浴衣や帯、髪飾りを選ぶ姿は、とても微笑ましいものでした。浴衣姿はかわいらしく、道行く人たちも振り返って見ているほどでした。街歩きでは、絵馬に願い事を書いたり、招き猫の置物を買ったり、お稲荷さんを食べたりしました。特に、お稲荷さんを気に入ってくれたようで、たくさん召し上がってくれました。絵付け体験では、購入した招き猫をモチーフに作品作りを行っていて、素敵なお皿に仕上がっていました。完成は２か月後、とても楽しみです。

留学中、バディのお母様と連絡をまめに取り合いました。そうする中で、国は違っても娘を大切に想う気持ちや思春期の娘への対応で頭を悩ませることがあるという点は共通であるということに気付き、共感し合うこともできました。この点は、私にとって良き学びとなりました。

最後になりますが、土浦市市民活動課の職員の皆様を始め今回の交換留学事業にご尽力いただきました全ての皆様に、心より感謝申し上げます。また、この事業が今後も継続され、土浦市が国際交流都市としてさらなるご発展をされますことを願っております。

## 5 パロアルト生徒･引率者より

（１）生徒より

Isabella Wang イザベラ・ワン（JLS 中学校）

Everytime my dad came back from his trip to Japan, saying how clean it was and how friendly the people were, I was fascinated by Japanese culture, and especially liked Japanese food. Japan seemed so different from the United States, which is why I chose to study Japanese. This is also why I had always wanted to go. When I heard about the Neighbors Abroad student exchange program from my Japanese teacher, I knew I had to sign up. This exchange program provided me with the perfect opportunity to go, and it was an unforgettable experience.

（和訳） 父が日本旅行から帰ってくるたびに、日本はとてもきれいで、人々はとても親切だと言っていましたので、私は日本文化に魅せられていました。特に日本食が好きでした。日本はアメリカとは全く違う国だと思っていたので、私は日本語を勉強することにしました。だからこそ、いつも日本へ行きたいと思っていたのです。日本語の先生からネイバーズ アブロードの中学生交換事業について聞いた時に、申し込まなければと思いました。この交換事業は私にまたとない機会を与えてくれ、そして忘れられない経験をしました。

Staying at someone else's house was a new experience for me, and I was very nervous. However, my host family was extremely welcoming and I felt right at home. The fact that I already got to know my buddy as she had already come to stay in my house in March helped to ease some of my anxiety as well. I enjoyed doing many fun activities with them, such as making takoyaki and playing with sparklers, and also recently discovered that I liked coffee jelly. I ended up liking takoyaki so much that in America I, with help from my host family, bought my own machine and learned how to make it. I also learned that we shared a passion for manga, and got to browse through their collection, as well as go to a traditional Japanese tea ceremony. I also got to go to a public bath for the first time, which was a very interesting experience.

（和訳） ほかの人の家に滞在するということは私にとって初めての経験で、とても緊張していました。でも、ホストファミリーはこの上なく歓迎してくれて、私はすぐ寛ぎました。バディについては、３月に我が家にホームステイをしていたので、すでに顔見知りになっており、私の不安を和らげてくれました。たこ焼きを作ったり、線香花火で遊んだり、近ごろ自分がコーヒーゼリー好きなことがわかったりと、楽しいことがたくさんありました。たこ焼き好きが高じて、ホストファミリーの助けもあり、アメリカで、自らたこ焼き器を買って作り方を覚えました。また、お互い漫画が好きという共通点があることを知り、彼女のコレクションを読み、日本の伝統的な茶道体験もしました。また、銭湯にも初めて行きました。すべてが面白い経験でした。

In addition, I also got to visit many different Japanese cities such as

Himeji, Osaka, and Tokyo and see many culturally important landmarks. We visited Himeji Castle, and learned about its conflicted past. Japan has such a rich history and culture. I very much enjoyed learning about it. I made many new friends, and I think that going to Japan helped to broaden my horizon.

（和訳）　さらに、姫路、大阪、東京など日本のさまざまな都市を訪れ、文化的に重要な名所をたくさん見学しました。姫路城を訪れ、過去の争乱について学びました。日本にはこのように豊かな歴史と文化があります。私はそれについて楽しく学びました。新しい友達もたくさんできて、日本に行ったことで視野が広がったと思います。

I also enjoyed going to a Japanese school. The students were all very welcoming. Going to school via train and wearing indoor shoes at school were new experiences for me. I thought that it was impressive that Japan was so safe that children could travel on their own. In Japanese schools, the students help serve lunches, and in my opinion, the quality of the lunches are much better than in American schools.

（和訳）　日本の学校も楽しかったです。生徒たちはみんな歓迎してくれました。電車で通学すること、学校では上履きを履くことは、私にとって新しい経験でした。子どもたちが一人で旅行できるほど、日本は安全な国なんだと感心しました。日本の学校では、生徒が給食の配膳を手伝いますが、私は、給食の質はアメリカの学校よりずっと良いと思います。

I returned to America bearing loads of souvenirs to share with my friends. My host family was kind and generous enough to give me gifts, and I also went on shopping sprees in the malls. Japan has a lot of wonderful gifts and unique things you can’t get in the U.S.

（和訳）　私は友人たちへのたくさんのお土産を携えてアメリカに戻りました。ホストファミリーは親切で、お土産をくださいました。日本には、アメリカでは手に入らない素敵なお土産やユニークなものがたくさんあります。

Because of this trip, I got to spend more time with friends and make new friends. I experienced many firsts during this exchange program, and I learned so much more about Japanese culture and society. I am so grateful that I got this once-in-a-lifetime opportunity from Neighbors Abroad, and this wouldn’t have been possible without the organizers, Evelyn Shimazaki and Christine Saxon. I look forward to seeing my host family and buddy again next year, and I’ll be sure to treasure the memories I make during this trip.

（和訳）　この旅行のおかげで、友人と多くの時間を過ごし、また新しい友人もできました。交換交流を通して、初めての経験を数多くしました。そして日本の文化や社会について多くを学びました。ネイバーズアブロードから一生に一度の機会をいただけたことを嬉しく思います。また、この事業は、リーダーであるエブリン・シマザキ氏、クリスティーン・サクソン氏なしでは、成しえませんでした。来年、ホストファミリーとバディに再会できるのを楽しみにしています。この旅行でできた思い出を大切にします。

## （２）引率者より

Nodelyn Lago Smith　ノデリン・スミス
（ネイバーズアブロード教育担当副会長）

While walking through one of the many sites we visited in Japan, one of our exchange students asked me ‘Who’s parent are you?’ I replied that my kids are all grown up with families of their own. I am a member of Neighbors Abroad and I wanted to support the Tsuchiura/Palo Alto student exchange program by volunteering to be a chaperone. This was also my first time in Japan. Last March, sixteen students from Tsuchiuria, Japan traveled to Palo Alto and homestayed with their Palo Alto host brothers and sisters. In June, these sixteen Palo Alto host brothers and sisters traveled to Tsuchiuria to visit their Japanese ‘buddies’. There were four chaperones on this trip: the VP of Tsuchiura for Neighbors Abroad, Evelyn Shimazaki; a parent of one of the students, Songli Wang; myself and my husband Doug. The Tsuchiura/Palo Alto student exchange program is over 30 years old and required hard work and dedication from the committees in Palo Alto and Tsuchiura. It became apparent to me that this student exchange impacts the entire community of Tsuchiura and the city makes every effort to make the experience as memorable as possible for our students and chaperones.

（抄訳）日本では多くの場所を訪れましたが、ある時交換交流派遣生の一人が私に尋ねました。「あなたはどの派遣生の親なのですか」と。私の子ども達は全て成人しており、それぞれ家庭を持っていると答えました。私はネイバーズアブロードの会員であり、引率のボランティアをすることで、パロアルトと土浦の中学生のサポートをしたいと思ったのです。

As a new student exchange chaperone some things I anticipated might happen but hoped wouldn’t happen, did happen. For example, our group experienced a lost passport, a lost wallet, even a lost student, who really wasn’t lost but at one time texted to the group, ‘Hey, where is everybody?’ Japan is a very honest and safe country, so the passport and wallet were returned quickly when found by others and each of the students had their phones, so communication was always an easy task.
We chaperoned the students through Himeji Castle, Fushimi Inari Taisha Shrine, Tokugawa Shrine, and the Shinkyo Bridge to name a few. With each location, one of our students gave a presentation and overview of the history of the location. Even though we had a guide in Himeji Castle and in Kyoto, it was still nice to listen to our students’ version of what they felt was interesting about the site. The presentations were brief and most often given while the student was reading from their phone, but it was a nice way to get an introduction and a good opportunity for some independent research. The other students also showed their support by

applauding
with positive comments afterwards. ‘Good job!’
（抄訳）交換交流の初めての引率者として、私は、ひょっとして何かが起こるかもしれないという予感はしていました。いや、何も起こらないで欲しい、と願いました。が、予感は当たりました。例えば、パスポートや財布を紛失した生徒がいました。さらに生徒そのものまで見失ってしまいました。実はその生徒は「おーい、みんなどこにいるの？」とメールをしてきたので見失ったわけではありませんが。日本はとても誠実で安全な国ですので、パスポートと財布はどなたかが発見してすぐに戻ってきました。また、どの生徒も携帯電話を持っていたので、連絡をとることに関しては難しくありませんでした。

When we arrived in Tsuchiura we were met by the parents and city staff at the Welcome Ceremony at City Hall. The head of the Tsuchiura International Association Board, Mr. Noriyuki Aoki, spoke and welcomed us with kind words. A translator was used so every speech was paused after a few sentences in order for the translator to translate. One sentence especially struck me since I love to garden was ‘You will try our sweet potatoes’, or something to that effect. Did I miss something in translation? Did he just say ‘sweet potatoes’? Sure enough, inside the welcome gift bags given to us and the students was a wrapped cooked sweet potato from a local company called Kaitsuka. It was the sweetest sweet potato I have ever eaten. Not surprisingly everyone, including the students asked, ‘Can we bring sweet potatoes home? Will U.S. customs allow us?’ Luckily, the sweet potatoes are cooked and packaged, and yes, it was ok to bring them back and many of us did. We were excited to share this newly discovered Tsuchiura delicacy with our families back home. Giftgiving is part of Japanese culture and is called ‘Omiyage’ in Japanese. This was one of the many cultural lessons learned by our students. Each of our students had to pack omiyage for their host families before departing for Japan.

（抄訳）土浦に到着すると、対面式が行われました。土浦市国際交流協会会長の青木規幸氏から歓迎の言葉をいただきました。その中で、「スイートポテトをお試しあれ」という言葉がひっかかりました。実際、歓迎のおみやげとしていただいたのは、これまでに食べたことがないほど甘い焼き芋でした。幸い加工がされていたので、（後日）買い求めて「おみやげ」としてアメリカに持ち帰ることができました。生徒達も、数多くある日本文化の一つである「おみやげ」の習慣を学びました。

Another cultural lesson we learned in Japan, is to not eat and walk at the same time. This is considered impolite in Japanese culture. When we visited the vast colorful Nishiki Market with its many food stalls, we saw signs everywhere saying you must eat the food in front of the stall where it was purchased. In Kyoto, we enjoyed ice cream and ate it in front of the store, even though Kyoto had a charming street with many interesting places to window shop. I never realized how our students

felt about this restriction, until 10 days later when we returned to SFO and immediately after arriving, one of the students exclaimed ‘Yes! Now we can eat and walk!’

（抄訳）また、日本では食べ歩きをしない、ということも学びました。京都では、買ったものはその場で食べてくださいと言われました。サンフランシスコに戻った時に、生徒の一人が「ようやく食べ歩きができる！」と言いました。食べ歩きができなかったことを彼らがどのように感じていたか、ようやく分った次第です。

One of my favorite parts of the trip was meeting with the host families in their homes and seeing our students interact with their buddies. Chaperones were hosted on several nights by several families for dinner. At our first family dinner, we learned how to make takoyaki, or octopus balls, which are minced octopus cooked in a savory batter made in a special pan that looks similar to a muffin pan except the indentations are half spheres the size of golfballs. You add various toppings on the batter as you delicately turn it over and over in the pan using toothpicks. In the end the batter cooks into a complete sphere - takoyaki! A new experience for all of us. After dinner, our host family and their children along with our Palo Alto student and neighborhood kids lit sparklers in the open area outside. I learned later that Tsuchiura holds a national fireworks competition every November, one of the largest in Japan. It was a festive celebratory ending to our first night in Tsuchiura.

At another dinner, we were guests in a traditional Japanese style home built by amily members long ago. We were greeted by the host family and their extended family with both sets of grandparents present. We were seated on the floor on tatami mats and pillows provided for extra comfort. One of the grandmothers told us in her spiritied English/Japanese and animated hand gestures, about her trip to the U.S. as a young woman and that she attended a concert by Paul Anka. She proceeded to sing a couple verses of Paul Anka’s iconic song ‘Put your Head on my Shoulder’. I’m a Paul Anka fan myself and knew the song and so sang it with her at the table as she sat folded knees next to me. The entire dinner party smiled. Song and music has a magical way of getting people to smile together. She was happy to see us, happy to share her beautiful home, happy to offer us a feast of delicious food. She was very thankful and appreciative to Neighbors Abroad for the wonderful experience her granddaughter had last March in Palo Alto. We appreciated her and her family and their incredible hospitality.

At another host family, we had a BBQ dinner outside with a view of their lovely garden. The traditional Japanese house was built by family members generations ago with beautiful dark kawara clay roof tiles with their curved wavy element reminiscent of a natural landscape. This type of roof has been an integral part of Japanese

architecture and culture for centuries. The garden was lovingly maintained by the grandfather with trees artistically pruned to look like giant bonzai trees. The grandfather offered the chaperones a taste of his favorite sake which we found to be very smooth and one of the best sakes we ever had. After dinner, we watched our student and their buddy enjoy lighting sparklers on the long driveway beside the garden.

Chaperones also had dinners and meetings with the Tsuchiura International Association's current and former members. At our dinner with the current President, Mr. Noriyuki Aoki, we were served the best wagyu beef and other meats cooked on a grill built into the center of the table. At another dinner at the former association president, Yuko Fujita's home, we were served the most delicious lamb chops. Ms Fujita is a gourmet cook and has written a cookbook which thankfully included the recipe for these lamb chops.

One day, while our students were in class, the chaperones toured the Shibanuma Soy Sauce Factory in Tsuchiura which was founded in 1688. The Shibanuma company has been owned by the same family since it began and we had the privilege of a private tour by the 17th generation owner. He told us the company's history as we toured the factory and store room that held the fermenting soybeans in large 20 ft tall handmade wooden barrels. These barrels were made without nails and can last for decades. One was even a hundred years old. When a new barrel is used, the inside of the old barrel is scraped and added into the new barrel to keep the continuity of flavor. The process remains traditional and varied little throughout the centuries. We sampled freshly pressed soy sauce and found its smooth umami taste was more complex and different from the mass market soy sauce we normally purchase in the U.S. The color of the soy sauce was a richer caramel auburn, different from the usual dark black. I equate the experience similar to touring a 300 year old winery and sampling it's fine wine made by a master winemaker. One gains an appreciation for a company like Shibanuma that is dedicated to tradition and high quality.

（抄訳）この旅行で良かったことの一つは、家庭で生徒同士が交流している様子を見ることができたことです。私たち引率も、いくつかのご家庭や協会の方々とお食事したり、花火をしたりする機会がありました。そして土浦では、日本で一番大きな花火大会の一つが１１月に開催されるということも知りました。素晴らしいおもてなしに感謝を申し上げます。

As chaperones, we visited several schools that our Palo Alto students attended as they shadowed their buddies. We met with the school administrators at each school and sometimes ate lunch with them at the schools. The hot lunches are free and served on a tray with different compartments for each course, similar to a bento box.

Teachers and students eat the same hot lunch which was balanced, healthy, and

tasty.The lunches come with a small milk carton and students are taught to fold the carton compactly to reduce space in the waste bin. We learned to do this as well. It was like making milk carton origami.
Our Palo Alto students dressed like their classmates and each wore the provided school uniforms to class. One class had 2 of our students being interviewed by their classmates as an assignment. Another class had one of our students performing experiments in a physics lab. One class had our student attending a nutrition class. A few students were in another school that we did not visit, but we were told they participated in a Sports Day. Later I asked one of those students how they liked Sports Day and she said they played games she's never played before. One of the games she described as similar to basketball except with the basket attached to someone's back and you had to chase them to put the ball into the basket. She described it as very funny and very fun.

（抄訳）引率として、生徒が通学する数校を訪問しました。温かい給食は無料で、それぞれ盛り付けられており、お弁当箱のようでした。小さな牛乳パックもあり（飲み終わった後は）小さく折り畳むのだと教わりました。パロアルトの生徒はそれぞれ制服を着ていました。クラスメートからインタビューされたり、体育でパフォーマンスをしたりしていました。栄養について学ぶ生徒もいました。

The chaperones and students immersed themselves into the Japanese culture which made the trip always interesting. One thing we realized about Japanese culture is that cleanliness and hygiene are very important. When you arrive at a school, you are offered 'indoor shoes' which are generally slippers or shoes that have never been worn outside. We brought our own 'indoor shoes'. Our students all had 'indoor shoes' provided. In Japan, as well as many other cultures, people take off their shoes before entering a home in order to keep the space clean. Japan goes a step further by also having 'toilet shoes' or slippers that are worn only in the bathrooms. Sometimes our naivete of these cultural norms led to embarrassing situations. In Kyoto we and the students had a special meal called a kaiseki dinner in a beautiful traditional Japanese restaurant that had floor to ceiling windows with lovely views of the outside manicured gardens. I walked out of the womens restroom to shocked and horrified faces by the wait staff who were looking down at my feet. I immediately knew I had forgotten to take off the toilet shoes yet again! And quickly went back to remove them.

（抄訳）引率も派遣生も日本の文化にどっぷりと浸ったことで日本訪問がより楽しいものになりました。中でも、清潔であるということがとても重要であることが分かりました。学校内では「内履き」を履くので、私たちも自分の「内履き」を持参しました。家でも靴を脱ぎます。トイレ専用のスリッパもあります。時には私たちの規範に照らして、戸惑うこともあり

ました。

As a chaperone, I enjoyed seeing Japan through the eyes of our students. After our students met with the Mayor of Tsuchiura and City Executives, one of our students was interviewed by the media and was asked 'What was your favorite part about Japan?' Our student replied that they liked 'all the vending machines!' I thought about it for a second, and YES, I agree! On a hot day, if you need cold water or a cool refreshment, you did not need to go far. At almost every street corner, building, train station, or park, a vending machine with chilled drinks can be found.

（抄訳）引率は、生徒の目を通して日本をみる、ということを楽しみました。市長表敬訪問の後、メディアから「日本で印象に残っていることは？」と尋ねられ、彼らは「自動販売機全部です！」と答えていました。私も同感です！暑い日も冷たいものを求めて遠くへ行く必要がありません。街中どこでも冷たい飲み物を備えた自販機があるのです。

The 30 year history of the Tsuchiura/Palo Alto student exchange and the incredible committment and hard work from the parents and communities of Tsuchiura and Palo Alto left me in awe. Our Palo Alto students meet not just their host families, but the entire Tsuchiura community and are treated as youth ambassadors. When the Tsuchiura students come to Palo Alto, they are also shown incredible hospitality by their Palo Alto host families and met at City Hall by the Mayor of Palo Alto and the City Council. There is a lot of hard work and committment that goes into organizing a student exchange like this and I applaud the efforts of the Tsuchiura International Association and the Neighbors Abroad Tsuchiura committee.
On our final day in Tsuchiura, Neighbors Abroad hosted a Farewell Lunch that was attended by students, parents, teachers, and city staff. The students enjoyed playing games like musical chairs. The laughter heard throughout the lunch was followed by warm hugs and goodbyes as our students sadly left to board the bus. We heard sniffles and tears as the students waved goodbye to their buddies through the windows as our bus left the parking lot and headed back to Narita Airport.

（抄訳）３０年にわたる中学生交換交流事業で、両市の保護者、市関係者の素晴らしい努力には頭が下がります。パロアルトの生徒は、ホストファミリーだけでなく、地域全体でヤングアンバサダーとして扱っていただきました。土浦の生徒も同様に、パロアルトではホストファミリーや市長などから素晴らしいもてなしを受けました。このように交換交流についてやるべきことは多々ありますが、関わってくださった皆さまに拍手を送りたいと思います。

This student exchange program casts a wide net, like a giant hug that wraps around two different communities thousands of miles apart. The program impacts so many in these communities. Why do we work so hard to bring these young people together?

Because the respect of other people and cultures is our best hope for the future. We cannot let social media replace the in-person interaction necessary for our youth to gain a better understanding of others.

（抄訳）中学生交換交流は、遠く離れた２つの異なる両市を包み込むように、視野を広げるものです。この事業は、両市に多くのインパクトを与えます。なぜ私たちは、両市の若者をつなげることに汗を流すのでしょう？それは、他の人々や文化を尊重することが、私たちの未来への一番の希望であるからです。青少年が他者をよりよく理解するために必要な、対面での交流を、SNS ですませてはいけません。

Not every host brother/sister connection will last a lifetime, but if just one or two out of our group does, then how wonderful is that! I wish my children had participated in a student exchange program like this when they were in middle school. I would have loved to chaperone the exchange and then if a student came up to me and asked ‘Who’s parent are you?’ I would have a name. If one has an opportunity to chaperone students and participate in an exchange, do it! It is a little thing we can do in our lives that goes a long way in touching the lives of many.

（抄訳）すべてのホスト同士のつながりが一生続くとは限りませんが、私たちの派遣生の中から数人だけでも長い間交流してくれたら、どんなに素晴らしいことでしょう！
私自分の子どもたちが中学生だったときに、このような交換留学プログラムに参加していればよかったと思います。私は喜んで交換交流の引率を引き受けただろうし、「あなたはどの派遣生の親なの？」と尋ねられたら、自分の子供の名前を教えたでしょう。もし、交換交流で引率をする機会があれば、ぜひやってください！私たちの人生の中でできる小さなことですが、多くの人の人生に大きな影響を与えるのです。

# 付　録

# 活動紹介写真

## ＜パロアルト市派遣＞　　令和６年３月１６日（土）～２５日（月）

### ●結団式（新治地区公民館）

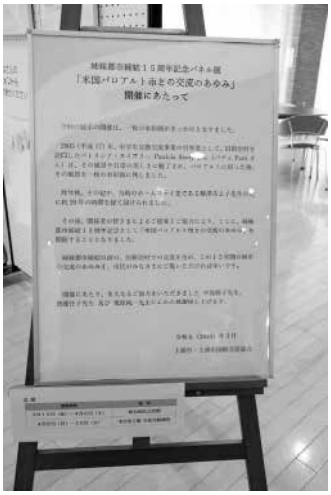
▲ 出発直前の結団式

▲ 生徒代表が意気込みを述べます

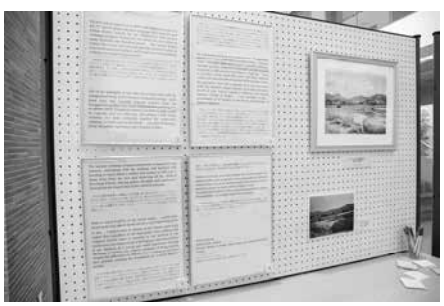
▲ いよいよ出発です！

▲ 皆に見送られ バスは成田空港へ

---



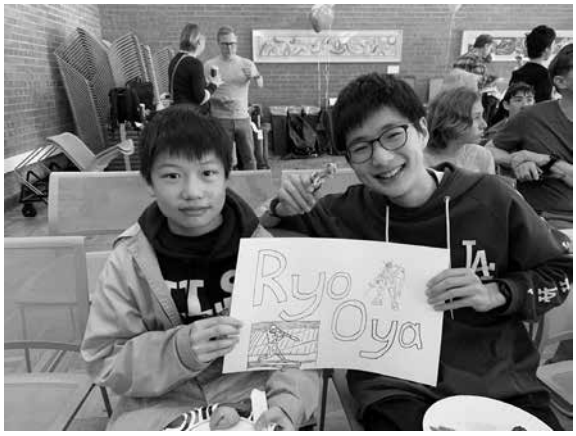

▼当日、会場の新治地区公民館では、パロアルト市との姉妹都市締結１５周年を記念したパネル展が開催されていました



## ●歓迎パーティ

▲ ついにバディと対面！

▲ 今日からホームステイが始まります




▲ すぐに仲良くなれました！

## ●学校訪問（JLS 中学校・Greene 中学校）

▲ 日本語クラスの生徒達が温かく迎えてくれました

▲▼ 日本や土浦についてクラスで発表しました

▲ バディと一緒に授業を受けます

## ●パロアルト市議会訪問

▲ Greer Stone パロアルト市長と

▲ 市議会で紹介されました

## ●パロアルト市近郊見学

### ＜Google 社＞

▲ ビジターエリアを訪問しました

▲ 開放的な敷地内には
アートなオブジェが多数
配置されています

### ＜スタンフォード大学＞

▼ 歴史あるキャンパスを体験しました！

▲ランドマークのフーヴァータワーから
見下ろす広大なキャンパス

## ●ヨセミテ国立公園見学

▲雄大な自然に圧倒されます！

▼快晴のもと、有名な「ハーフドーム」
を見ることができました

## ●サンフランシスコ見学

▲CalTrain やケーブルカーで移動し、
世界中からの観光客で賑わう街を楽しみました！

## ●答礼パーティ

▲生徒達による司会や
レクリエーションで
お別れ会を
盛り上げました

▲パロアルトの皆さん、ありがとうございました！

▲バスでサンフランシスコ国際空港へ出発。６月に土浦で待ってるね！

## ＜パロアルト市生徒受入れ＞　　令和６年６月７日（金）～１５日（土）

### ●対面式

▲バディの土浦駅到着を緊張しつつ待ちます

▲３か月ぶりの再会です！

▲パロアルト・土浦の代表生徒からあいさつ

▲青木会長から
歓迎のあいさつ

### ●座禅体験（向上庵）

▲緑あふれるお寺で静寂なひと時を過ごしました

## ●学校訪問

▲お揃いの制服で登校します！

▲クラスの授業に参加します

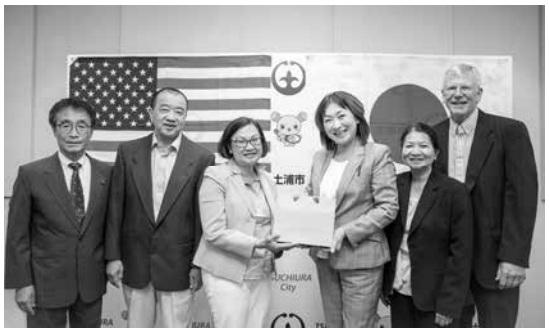
▲音楽の授業も一緒に…

▲日本の給食を初体験

▲歓迎してくれたクラスメイトたちと

## ●市長訪問

▲生徒代表からあいさつ




▲安藤市長から歓迎のあいさつ

▲土浦とパロアルトの交流が末長く続きますように

## ●パロアルト一行日光見学

▲バスで日光へ出発

▲神橋で記念撮影

## ●パロアルト市引率者体験活動

▲中学校の授業を見学します

▲1688 年創業の柴沼醤油を訪問

▲「刻の太鼓」を体験

▲国指定重要文化財の土浦一高旧本館にて

## ●答礼パーティー

▲準備も皆で行います

▲日本のスナック、どれにする？

▲生徒代表からお礼のことば　▲生徒の司会で、イス取りゲーム開始！

▼ビンゴ揃うかな～　▼バディにお礼のプレゼント贈呈

▶
一行が成田空港に
向けて出発
また、会おうね！

▲土浦に来てくれてありがとう！また会える日まで

# 令和６年度　土浦市中学生交換交流事業
# （パロアルト市）実施報告書

編　集／令和６年度　土浦市中学生交換交流事業派遣生・保護者及び引率者
発　行／土浦市国際交流協会
土浦市大和町９番１号　土浦市市民生活部市民活動課内
ＴＥＬ　０２９－８２６－９０５１